平成30年度 事業報告書

平成 30 年度 事業報告

事業報告書 (地域連携事業含む)

地域に開かれた学園として (幼稚園 専門学校 大学)

本学園では、地域に開かれた学園として地域貢献、地域連携活動を積極的に進めております。

少子高齢社会を迎え、地域の方々の医療や福祉、特に「健康」への意識が高まり、予防 医学や予防介護といった知識・技術が求められています。企画調整室ではそのようなニー ズに対応するため、本学園の持っている知的財産を地域へ還元することを目的とし、地域 の方々が気軽に参加できるような講座を開講しております。

大学では5年前から、前橋商工会議所・藤岡市が主催する「まちなかキャンパス」に参加し、子どもからお年寄りまで幅広い世代の方が交流し、語らい、楽しめる学びの場を提供しております。この「まちなかキャンパス」を通じて、地域の皆様をつなぐ架け橋として、長年培ってきた教育と研究を土台に、地域のニーズに応えられる大学としてその役割を果たしたいと願っています。

その他、近隣の公民館においては子育て支援講座、高齢者教室を定期的に実施したり、 教員が施設や学校に出向き講座を実施したりする出前講座も積極的に実施しています。

さらに、今日の少子高齢社会において生ずる種々の問題に対して研究・調査及び情報提供を中心に地域の方々の相談事業にも対応しています。

群馬社会福祉専門学校では社会人の学び直しニーズに対応するため、社会福祉士通信課程の設置や、介護福祉士筆記試験対策講座等を開講しています。E-Learningを使用し、受講生の学習進度に応じて、主体的に学べることに大変好評を得ております。

附属幼稚園では、鈴蘭幼児教育センターを設置し、子育て支援や育児相談等に応じています。地域貢献活動として元総社地区文化際や前橋まつりに参加し、秋には幼稚園バザーを行い地域の方々との交流を深めております。

このような活動を通して、開かれた学園として地域の方々が気軽に往き来できる学園づくりを進めております。

以下は30年度の実績報告となります。

1. まちなかきゃんぱす 前橋商工会議所連携事業

群馬医療福祉大学は前橋商工会議所連携事業としてまちなかキャンパスを開催し、地域の方々を対象に、長年培ってきた教育と研究を土台に、地域のニーズに応えられる大学としてその役割を果たしたいと願っています。

少子高齢社会を迎え、地域の方々の「健康」への意識が高まり、予防医学や予防介護といった知識・技術が 求められています。そのようなニーズに対応するため、本学の持っている知的財産を地域へ還元することを 目的とし、地域の方々が気軽に参加できるような講座を開講いたしました。

2. 論語の学堂 講座開催

本事業は本学の歴史及び建学の精神に基づき、平成24年3月から開始した事業である。本学の淵源は宝徳元年(1949)に遠祖長尾昌賢が学問所を開設したのに始まり、世世漢学の教授を以て地域教育に貢献しています。

古来、漢学と呼び習わされている学問の中心にあるのが四書・五経と総称される中国の古典であり、就中日本では古代より論語が重んじられてきました。そして本学は論語の「仁」を建学の精神とし、学生へ全人教育を行っています。福祉は特に人と人との関係構築が重視される分野であり、人間関係を築く上で最も大事なのが他者を己の如く感じる心、要するにそれが「仁」である。福祉と論語は決して無関係ではありません。この論語の精神、つまり「仁」を広く社会に還元するために、万を期して本年(平成25年)より通年講座として開始いたしました。

3. 特別講演会 ~萬田緑平先生 最後まで目一杯生きる

総社町で緩和ケア診療所の院長をされている、萬田緑平先生をお招きし、「最後まで目一杯生きる」と題した 講演会を行いました。終末期であっても、最後の瞬間まで自分の意思で自分らしく生きることの大切さ、素 晴らしさを、映像と共に気さくな語り口でお話しくださいました。

4. 公開講座 30年10月~11月予定

本講座は、本学における教育・研究の成果を広く社会に開放し、地域社会の福祉と医療の向上に資することを目的に実施いたします。25 年度も大学院の社会福祉学研究科、大学の社会福祉学部、看護学部、リハビリテーション学部、短期大学部の介護福祉学科等の教員が講師として、講座を開設いたしました。





5. 高大連携事業 単位認定授業開講 8月

群馬医療福祉大学は、「地域に開かれた大学」を目指しており、その取り組みの一つとして地域の高等学校のとの連携を進めております。

高校時代に本学が実施する高大連携授業科目を履修することにより、社会福祉に関する内容を理解することができ、進路の選択に役立つこと、及び高校生活の充実、学習意欲の一層の向上に寄与することを目的として実施いたしました。

なお、この高大連携授業により習得した単位は、本学に入学した場合は本学で修得した単位として認定しております。

6. 東公民館家庭教育学級連携事業 もっと!すくすくおやこスクール

子育てについてのコツや困ったときの対処法について学ぶとともに、日ごろ思っていること悩んでいること などについて情報交換し、親子ともに楽しく健やかな毎日を応援します!みんなで一緒に楽しく子育てしませんか? 群馬医療福祉大学の先生方が講師として色々なことを実践しました。

期間 平成30年12月~31年1月

時間 10 時~12 時

会場 前橋市 東公民館

参加者 未就園児をもつ保護者とその子



7. 東公民館 高齢者教室 参加者

高齢者と地域のふれあいの輪を結び、お互い学びあうとともに、こころ豊かな生活(健康・仲間づくり等)づくりを目的に地区内在住の概ね60歳以上の方を対象に実施。健康増進と地区の交流や東地区老人クラブ連合会の事業(学習活動)として位置づけられています。本学介護福祉学科の教員が講師として講座を担当いたしました。

8月下旬 ○「日常生活でできる生活術~血圧管理のコツ~」

9月上旬 ○「認知症にならないための予防策」





8. 自治体や団体との連携と人的資源(マンパワー)の提供

本学はボランティアや環境美化活動を通じた教育を重視し、学生の主体性を重視した教育を実践しています。特に<u>ボランティア活動は単位化し必修科目</u>としています。以下のとおり26年度の地域貢献を行いました。

・地域貢献活動への取組

前橋市

前橋まつり、前橋七夕まつり、前橋シティマラソン 前橋あそか会 あそかまつり、やる気の木プロジェクト学生派遣 前橋ヒルクライム、赤城大沼マラソン

藤岡市

藤岡市民活動フェスティバス、藤岡子どもフェスティバス 藤岡市民討議会、藤岡まつり、藤岡フェスタ 藤岡健康福祉祭、産学官連携藤岡まちづくりシンポジウム

群馬県

群馬県障害者スポーツ大会、リレーフォーライフジャパン、 おくたの元気隊、みやま養護学校





9. 神流町 おくたの元気隊

おくたのげんき隊活動報告会

中山間地域と学生との交流事業である「おくたのげんき隊」の活動について看護学部の学生20名が参加している。過疎化と高齢化が深刻な奥多野地域に、世代間交流を生み出すことを目的とし、学生たちは1年間、高齢者サロンや地域の行事に参加している。









10. 世界遺産 高山社での活動

本学が目指す地域密着型の実学教育として、地域と大学が協働して、地域の特性を活かしたまちづくり、コミュニティづくり、地域活性化を目指しております。

この度、本学が所在する藤岡市は「富岡製糸場と絹産業遺産群」の構成資産のひとつである高山社跡が世界遺産に登録されました。本学ではこの世界遺産・高山社において藤岡市と連携し高山社跡において、本学学部の特色を活かした活動を展開し藤岡市の発展、地域活性化に寄与して参ります。

学生は事前に高山者跡に関する基礎知識を学び、学生案内人として見学者をお出迎えしたり、駐車場のご み広い等の活動をしたりしています。さらに看護学部生は学びの特色を活かし、健康チェック・血圧測定を 行い、参加者の健康を気遣いながら交流を図りました。

11. 海外研修報告

研修期間 2019.8.29 ~ 2019.9.9 参加学生24名 引率2名 訪問先 カナダ レジャイナ



2018年度より、英語圏であるカナダ・レジャイナ大学にて8月29日から9月8日までの11日間、短期留学研修を実施してきました。学生たちはESL(English as a second language)のクラスに所属し、英会話の講義や心理学、さらには専門分野である看護学、運動学、教育学の講義を受講してきました授業はALL ENGLISH で行われ、電子辞書を使用しながらも講義内容を理解し学べたことは、学生たちにとって大きな自信につながったことと思います。レジャイナ大学は世界中から留学生を受け入れており、学生たちは様々な国の学生たちと自発的にコミュニケーションをとり、交流を深めていました。参加学生は、快適な滞在先とレジャイナ大学スタッフの細やかな対応により、安心で安全な環境のもとで貴重な体験と充実した学びを得ることができました。

研修期間 2019.3.17 ~ 2019.3.25 参加学生31名 引率2名 訪問先 フィリピン マニラ



グルーバル人材育成推進事業の一環として、フィリピン海外研修プログラムを 2019 年 3 月 17 日 \sim 3 月 25 日までの 8 日間にわたり実施してきました。参加した学生は看護学科 29 名、社会福祉専攻 2 名、計 31 名です。

現地では提携大学の学生や施設に入所中の子どもたちとの交流を通じて、短い時間でしたが異国の文化や生活に触れることができ、楽しくかつ有意義な経験となりました。医療施設の視察では、貧困層の人たちが無料で受診できる病院や産院、精神科国立センター、さらに、富裕層向けの高度な設備が整った私立病院等を見学し、フィリピンの医療事情を知ることができました。また、路上で生活する子どもたちや劣悪な住宅事情を目の当たりにし、生活環境、労働、教育等について考えるきっかけにもなりました。このような経験が学生達にとって、今後の学生生活、社会生活を考える上で、貴重な素材を与えてくれるものと確信しています。

なお、このプログラムは留学生支援プログラムタイプAに採択され実施したプログラムになります。

企画調整室 活動報告

【社会福祉学部・看護学部・リハビリテーション学部・短期大学部】

実践(活動)事項

- ・将来構想に関すること
- ・中期目標・中期計画に関すること 平成35年度までの中期目標の策定
- ・国際化に関する取組み 海外大学との協定プログラムの促進 海外留学支援制度(派遣)申請
- ・地域貢献活動に関すること
- ・自治体との連携に関すること
- ・その他教育研究、事務に係る総合的な戦略に関する計画の企画及び立案、調整に関すること
- ・将来構想 社会福祉学部改組に関すること

委員会実施報告

第1回 4	月 11	日	経営戦略	学生募集に関する取組みについて

第2回 4月 25日 大学院改組についての検討

第3回 5月 23日 医療技術学部申請スケジュールについて センター機能業務内容確認

第4回 7月 11日 診療情報専攻の設置について(短大) 導入教育について

専門学校経営戦略について

第5回 10月 1日 LGBT リカレント教育 31.32 年度学年暦について

第6回 11月 6日 社会福祉学部改組について①

第7回 11月21日 社会福祉学部改組について②

第8回 12月12日 社会福祉学部改組について③

課題(問題・改善)反省事項

- ・将来構想計画については断片的な計画となっており、長期的な経営戦略ビジョンを明確にする必要があり、今後ワーキンググループを作成するなどし、全学的に活動を促進させるような取組みを図っていく。
- ・全学的な体制での教育の質的転換を継続的に図っていく。全学的教学マネジメント体制の構築やアクティブ・ラーニングの充実、学修支援体制の整備、学生による授業評価結果の活用、学生の学習時間等の把握し改善改革を進める。IRデータの活用と補助金獲得を目指す
- ・国際化については28年度から積極的な活動を進め協定締結など成果をあげることができた。今後は、 語学教育強化、国際環境整備、地域の国際化などの多様なグローバル化への転換を図っていく必要が あり、実践的な語学教育や教員の英語力強化をはじめ、海外大学等との交流協定などを積極的に行っ ていく必要がある。さらに受入態勢の整備を30年度中から実施しているが継続的に進めていく。
- ・産業界や自治体他の連携について教育面を含む産学連携体制の構築、企業等との教育プログラムの共 同策定・実施などが考えられる。

31 年度の展望

- ・今までの実績をもとに自治体との連携事業をより具体化する。この事業をもとに私立大学等総合改革 支援事業や前橋市めぶくプロジェクトを加速化させる。
- ・グローバル人材育成などの次世代を担う人材育成やアクティブ・ラーニング等による教育の質の向上 に取り組む。受入態勢を整備する
- ・企業及び産業界との連携に取り組み、研究活動に活かす仕組みづくりを構築する。
- ・地域連携センターのサポートを行い、地域連携会議の開催を目指す。

所属関係教員

◎田口 鈴木靖 笹澤 塚本 樋口 小島 足立 白井 山口 新木 川端 平形 大竹 梅山 間渕

陽明学部会 活動報告

【社会福祉学部・看護学部・リハビリテーション学部・短期大学部】

実践(活動)事項

・平成30年度「論語の学堂」(前期)公開講座(13時~14時半)計11回

5/14 鈴木利定学堂長「あいさつ」岡野康幸講師「公冶長篇第九章~公冶長篇第十二章講義」5/21 岡野「公冶長篇第十三章~公冶長篇第十六章講義」5/28 岡野「公冶長篇第十七章~公冶長篇第二十章講義」6/4 岡野「公冶長篇第二十一章~公冶長篇第二十四章講義」6/11 濱口富士雄(元群馬県立女子大学長)「『論語』における中庸」6/18 岡野「露伴の論語解釈-文学者と論語-」6/25 中根公雄(二松學舍大学非常勤講師)「朱熹と王守仁の『論語』解釈」7/2 中里麦外(本学名誉教授)「『論語』の受容とその深層」一日本の近代化を越えて一7/9 川辺雄大(二松學舍大学非常勤講師)「漢文教科書中に見る論語について」7/23 塚本忠男看護学部長「書と論語その十七」7/30 鈴木利定学堂長「孔子の学芸観」

・平成30年度「論語の学堂」(後期)公開講座(13時~14時半)計12回

10/15 鈴木利定学堂長「あいさつ」岡野康幸講師「公冶長篇第二十五章~公冶長篇第二十七章講義」10/22 岡野「雍野篇第一章~雍野篇第四章講義」10/29 岡野「雍野篇第五章~雍野篇第八章講義」11/5 片山哲也 (本学非常勤講師)「中国古典と学ぶ」11/12 岡野「雍野篇第九章~雍野篇第十二章講義」11/19 岡野康幸「雍野篇第十三章~雍野篇第十八章講義」11/26「加藤虎之亮と論語」12/3 濱口富士雄(元群馬県立女子大学学長)「論語が読めるとは?一学而篇首章をめぐって一」12/10 小林義信(本学教育支援センター長)「子どもから学ぶ」12/17 塚本忠男看護学部長「書と論語その十八」1/21 中里麦外(本学名誉教授)「『論語』の受容とその深層一論語批判の諸相一」1/28 岡野「中島敦『弟子』を深く読むために」

委員会実施報告

第1回4月24日 第2回9月25日

課題(問題・改善)反省事項

- ・建学の精神と密接にかかわるため、教職員一人ひとりが自発的に『論語』への理解を深めるよう啓発に努める。
- ・高齢者・歩行に不自由を覚える方の参加が多数を占めるため、会場や人員に配慮する必要がある。

31年度の展望

- ・途中から来なくなった方で、また戻って来られた方が増えた。これからもそういう方の増加が望まれるため、地道な活動の継続と広報活動(ロコミ)が重要になる。
- ・新規会員の確保に努める。
- ・論語の学堂バスツアー(神田の古本屋買いを巡る)の要望が高いため日程を調整の上、実現を目指す。

所属関係教員

前橋キャンパス (委員長)鈴木学長 (副委員長) 岡野 (委員) 笹澤・中野・川端大・浅川藤岡キャンパス (委員長) 塚本

学生支援センター 活動報告

【社会福祉学部・看護学部・リハビリテーション学部・短期大学部】

実践(活動)事項

- ・「学生相談」「保健指導」「障害学修支援」の3つのパートで活動する。
- ・各々の活動目標に沿って、学生への支援を具体的、個別的に行う。
- ・学生の目線にたったセンターのあり方を考えていく。

委員会実施報告

<学生相談> 会議、打ち合わせを24回開催

第 1回 4月 6日

<保健指導> 会議打ち合わせを1回開催

<障害学修支援> 会議、打ち合わせを5回開催

課題(問題・改善)反省事項

- ・学生相談については、対応職員の不足と対応環境の整備が不十分なことが明確化された。
- ・保健指導については、対応職員の不足が明確になった。
- ・障害学修支援については、対応職員の不足と具体的支援の教員(非常勤も含む)への啓発不足が明確 化された。
- ・3キャンパスで専門的に対応する職員の必要性がある。
- ・「保健指導」について、「保健管理センター(仮)」の設置の必要性を感じた。

31年度の展望

- ・上記課題を踏まえ、具体的支援をさらに明確化していくことをめざしたい。
- ・3キャンパスに適正な専門対応職員の配置を提案し、学生への対応の迅速化、的確化を図る。
- ・学生に周知する意味も含め、拠点となる部屋がほしい。

所属関係教員

真下・大島・植原・鈴木淳・柳澤・中嶋

酒井 (藤岡)・宮寺 (本町)・柴 (本町)

入試広報部会 活動報告

【社会福祉学部・看護学部・リハビリテーション学部・短期大学部】

実践(活動)事項

- 3) ホームページの管理・運営
- 5) 各入試実施·合否判定会議実施
- 7)入学前指導運営
- 9) 平成 31 年度学生募集計画立案
- 1) 平成30 年度学生募集計画立案・実施2) 高校訪問実施 進路ガイダンスへの参加
 - 4) オープンキャンパス実施(参加者数)
 - 6) 大学入試センター試験実施)
 - 8) 各行事アンケート実施

委員会実施報告

- 第1回 4月11日 30年度学生募集計画について
- 第2回 5月25日 学生募集戦略の変更点 教諭対象説明会について
- 第3回 7月 4日 オープンキャンパスの企画運営について 英語学部試験活用について
- 第4回 8月25日 推薦入試学生募集確認
- 第5回 10月31日 31年度入試広報計画 30年度出願確認 オープンキャンパスアンケー ト入学前教育及び初年次教育プログラムの体系的整備について

課題(問題・改善)反省事項

看護学部、リハビリ学部については高大連携型 AO 入試の導入もあり非常に好調であった。そ の他の学部についてはオープンキャンパスの参加者が増えているにも拘わらず志願者が減少 した。その原因として本学を第1志望としない参加者が多かったこと、また第1志望として いた受験生が他校へ流れていることが予備校の模試データ及び県内高校教員からのヒヤリン グ調査でわかった。

第1志望としていた受験生が他校へ流れた理由として、他大学の雰囲気が良い、施設・設備 が良い、奨学金制度が充実している、小学校教員になるための専門的な学びができる方を選 択したなどの意見があがった。次年度は高校生が大学生になった自分が憧れのキャンパスラ イフをイメージできるような戦略を検討し、競合他大学との差別化を図る。

31年度の展望

「高大接続改革実行プラン」に基づき、大学で学ぶ意欲を持つ多様な生徒を多面的・総 合的な入学者選抜で受け入れ、高等学校で培った⑦基礎的な知識及び技能、⑦これらを 活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力、⑥主体的に学 習に取り組む態度(以下、「学力の3要素」)を更に育み、各学部の専門的な深い知識・ 技能を獲得させ、本学独自の入試を明確に打ち出す。

社会福祉学部は改組し、心理学やこども、教員養成を PR し募集を強化する。入学者選抜につ いては、高大連携型 AO 入試の選抜方法を見直すこと、また入試区分ごとに適正な合格者数を 出せるように検討する。

所属関係教員

部会・委員氏名 ◎委員長 ○副委員長

前橋 ◎田口、○宇佐美、大竹、鈴木靖、松永、川端奈、片桐、長津、星野、榎田、渡 邊、内堀、名塚

藤岡 ◎上田、○小林、中山、福岡、間渕、石川

本町 ◎牛込 ○横山、岡田

紀要・論集部会 活動報告

【社会福祉学部・看護学部・リハビリテーション学部・短期大学部】

実践(活動)事項

- ・査読関連書類の作成
- ・原稿の募集
- 執筆要領の改訂作業

委員会実施報告

第 1 回 6 月 12 日 査読結果について 等

第 2 回 11月 21 日 査読について 等

第 3 回 1 月 16 日 査読について 等

第 4 回 2 月 13 日 投稿条件について 等

課題(問題・改善)反省事項

30年度は紀要の執筆要領について各学部ごとに検討して、改訂した。論文の査読者には、執筆要領に基づいて、査読を依頼した。査読者に、執筆要領の問題点・改善点の調査を行い、次年度の課題として取り上げていく予定である。

31年度の展望

査読者に対する執筆要領の問題点・改善点の調査結果に基づき、31 年度は紀要の執筆要 領の改訂作業に取り組む予定である。

所属関係教員

【社会福祉学部】◎白石 ○大野 森田 高草木

【短期大学部】○土屋

【看護学部】◎菅沼 高橋

【リハビリテーション学部】◎村山 星野

研究倫理・公的資金運営委員会 活動報告

【社会福祉学部・看護学部・リハビリテーション学部・短期大学部】

実践(活動)事項

- ・「群馬医療福祉大学 研究倫理・公的資金運営委員会規程」の適切な運用、および公正な研究活動の活性化(研究倫理審査の申請推進ならびに研究倫理審査の実施)
- ・研究倫理教育の実施

委員会実施報告

第 1回 5 月 9 日 研究倫理審査申請の効率化など

課題(問題・改善)反省事項

- ・e-learning 教材【eL CoRE】を用いて、各自が学修する形での研究倫理教育を実施した。本年度の期日までに全員の学修完了を達成することが課題である。
- ・研究倫理講習会を12月25日に実施した。文科省通達にもとづくレクチャーを行ったうえで、研究倫理に関する各トピックスについて、各グループに分かれて議論し、コメントをグループ単位でまとめるグループワークを行った。研究倫理教育の内容について、今後更なる改善を図っていくことが課題である。

31年度の展望

- ・「群馬医療福祉大学 研究倫理・公的資金運営委員会規程」の適切な運用(研究倫理審査申請の周知および研究倫理審査の実施)
- ・研究活動における不正行為防止等に関連した研究倫理教育への取り組み(FDとの連携)
- ・他機関の研究倫理教育の体制や内容について、情報を収集・整理し、改善を図っていく。

所属関係教員

【社会福祉学部】◎大野 ○白石 笹澤 岡野 中野

【短期大学部】 土屋

地域貢献委員会活動報告

【社会福祉学部・看護学部・リハビリテーション学部・短期大学部】

実践 (活動) 事項

建学の精神および理念に基づき、地域に対する大学の果たす役割について情報提供を中心 に出前講座等を実施した。

地域に開かれた大学として、だが訓持てる機能を関係団体と連携し事業を実施した。

委員会実施報告

実務を中心に委員同士の意見交換の場として毎週火曜日に定例の打ち合わせを行ってきた。

課題 (問題・改善) 反省事項

- 出前講座については本大学の教職員の知識・技術等を地域に活かすため、地域住民の ニーズに応じた出前講座を積極的に推進してきたが、特定の教職員に口座に依頼が集 中する傾向にある。今後は、様々な媒体を通じて更なる周知を図る必要がある。
- 出前講座について、土日や夜間の依頼もあり、教職員の負担も増加している。今後の 受け入れについて土日夜間の対応をいかにするか検討しなければならない。
- 介護職員初任者研修の実施については予定人員の確保ができたが、地域貢献という観点からすると地域住民に開かれた研修とすることが必要である。
- まちなかキャンパスの実施については参加者も少なく今後前橋市商工関係者との 更なる連携を図り、住民のニーズに沿った事業を実施しなければならない。

31年度の展望

各種講座等については、地域ニーズに沿ったテーマとなる講座の検討と共に、周知方法等について一考を有する。地域連携センターが発足したことから 31 年度は新たな出発の年と位置付けたい。

所属関係職員

新木、橋本、秋山、土屋、名塚、風間、多田

公開講座委員会 活動報告

【社会福祉学部・看護学部・リハビリテーション学部・短期大学部】

実践 (活動) 報告

- ① 公開講座の開催
- ② 昌賢祭と連携した講座の開催

委員会の実施報告

第1回 5月12日

第2回 6月20日

第3回 7月18日

第4回 10月17日

課題 (問題・改善) 反省事項

- 公開講座についてはリピーターが一定数いることから、前年度踏襲とならないように講座 内容を変えていくことが必要である。
- 情報機器の機材の老朽化があり、受講生にとって若干不便をかけている。
- 特定の方が集中的に質問をする傾向にあるため、質問の取り方などに留意が必要。
- 昌賢祭については話題性のある講師が確保できたことから多数の受講生が参加してくれた。今後とも周知について留意していかなければならない。
- 詳細な事務手続きについて更なる見直しが必要な部分も散見された。

31 年度の展望

○ 大学の持てる知識等を地域に還元することは重要な分野であり、今後もしっかりとした周知によってより精度の高い公開講座が実施できるものと考える。

所属関係教員

新木、時田、永澤、森田、矢嶋、永藤、源内、跡部、小島、高坂

高大連携部会・委員会活動報告

【社会福祉学部・看護学部・リハビリテーション学部・短期大学部】

実践(活動)事項

- ・高大連携授業の準備・開催(高大連携講座)
- ・高大連携高等学校との連絡協議会の開催(高大連携高校との情報交換会)
- ・高大連携に関わる教育機関との連携(群馬県総合教育センター研修の開催)
- ・高大連携授業と入試広報課との連携(高大連携型 AO 入試形態)
- ・高大連携高校の増加促進
- ・教員免許状更新講習の準備・開催(文部科学省・群馬県への実績報告書も含む)
- 教員免許状更新講習の開催公認申請(文部科学省)
- ・ 群馬県内大学連絡協議会への資料提出
- ・各種アンケート調査・集計・分析

委員会実施報告

第1回 5月16日 高大連携授業について(授業の日程・内容・講師、A0入試の関係他)

第2回 5月23日 教員免許状更新講習担当者会議(要綱、日程、開催講座、テキスト、試験)

第3回 6月6日 高大連携授業 (含む入試広報課: A0 入試の評価基準について)

第4回 6月20日 高大連携授業(含む入試広報課:A0入試の検討:口頭試問)

第5回 10日3日 高大連携授業(高大連携講座を中心としての振り返り~次年度へ)

第6回10月17日 教員免許状更新講習(教員免許状更新講習について:まとめ)

第7回11月20日 高大連携授業担当者会議(高大連携授業を振り返って)

第8回12月19日 高大連携授業(本年度のまとめと次年度に向けて反省事項)

第9回 1月16日 高大連携授業 (コマシラバス作成に向けて)

※上記会議以外に、地域連携センター室にて適宜会議を開催して課員の周知を図った。

課題 (問題・改善) 反省事項

本年度は機構改革により、地域連携センター内に高大連携委員会が設置され業務が遂行された。センターと 委員会の規程作成や、高大連携授業では本年度から導入した高大連携型 AO 入試のための評価基準作成など、 今までの業務範囲とは異なり戸惑った部分が多くあった。また、<u>教員免許状更新講習は、他大学は教務関係</u> (文科省連絡や単位認定等) 部署が担当しているので本学も一考を要す必要がある。

高大連携事業は、これからの重要な分野でありしつかりとした組織作りを手がけていく必要がある。

31年度の展望

本年度は組織や担当が一新して出発した事もあり、足下が定着するまで時間を要したが、次年度は今年度の反省や課題を見直し、充実した事業展開をおこなっていいけると思える。

所属関係教員

※新木(センター長) ◎櫻井 ○永澤 ○秋山 吉澤 渡邊 内堀 (委員会)

※新木(センター長) ◎櫻井 ◎高坂 ◎山下 ○永澤 秋山 岡田 石川 渡邊 内堀 (部会)

研究部会 活動報告

【社会福祉学部・看護学部・リハビリテーション学部・短期大学部】

実践(活動)事項

- ・研究活動の推進一今年度は民間財団の公募情報を 13 件、一斉送信をした。今年度より各キャンパスに『研究者のための助成金応募ガイド』を置き、教員への応募促進を図った。その結果、今年度は<u>数名の教員が民間財団からの研究費を獲得</u>している。平成 31 年度科研費への応募は社福 3 件、看護 9 件、リハ 2 件、短大 0 件でほぼ例年並みである。(去年は合計 16 件)
- ・科研費獲得のための研修会の実施—9/6 (金) に、科研費獲得に向けどのように書類を作成すべきか、 講習会を実施した。参加人数 31 名
- ・外部資金獲得のための全学挙げての応募—外部資金獲得のため本学単独で「私立大学等改革総合支援 事業」(タイプ1 教育の質的転換) へ応募した。

委員会実施報告

第 1回 7月 20日 (メール会議)

第 2回 3月 13日 (予定)

第 3回 月 日

課題(問題・改善)反省事項

- ・教授会・教員会の開始日しか一堂に顔を会わせる機会が無いため、連絡を密にすることができなかった。機会を積極的に作り、他学部間との意見交換を密にするようにしたい。
- ・外部資金を獲得するためには、日ごろより獲得しようとする分野に関して活動をしている必要がある。 小手先ではなく本腰を入れた研究を推進する必要があろう。

31年度の展望

- ・今年度の活動を継続発展させていく。
- ・外部資金獲得のため、全学挙げての体制構築を進める。

所属関係教員

社会福祉学部 (委員長) 岡野 (副委員長) 江島 (委員) 森田、白石 看護学部 (委員長) 島田

リハビリテーション学部 (委員長) 山口 (委員) 村山

留学生支援センター 活動報告

【社会福祉学部・看護学部・リハビリテーション学部・短期大学部】

実践(活動)事項

- ・留学生の受け入れ体制・学内環境の整備。
- ・留学生の生活面をサポート
- ・ 本学学生の海外留学の促進
- ・海外協定校との連携
- ・留学生支援事業申請(タイプ B 獲得)

委員会実施報告

第 1回 4月 10日

第 2回 5月 13日

第 3回 10月23日

課題(問題・改善)反省事項

- ・留学生の学生募集をするには学内体制の整備(奨学金制度の充実、寮、日本語教育の充実)などがあげられるが、その体制まで至っていない。
- ・海外研修の内容は充実させることができたが学部によっては参加者がいない状況もあるので IR データを活用し、何故参加しにくいのかを検証する。
- ・海外留学支援制度(協定派遣)タイプAに採択されなかったので次年度は獲得を目指す。

31年度の展望

- ・海外大学との協定締結を進め、協定締結後は連携を強め、新規協定校を増やす。(2020 年までに協定 校を8校とする)
- ・協定校と学生の交流を進め、教職員交流や、教育研究等の質の向上を目指す。
- ・外国人留学生が幼稚園、福祉施設、病院等でボランティアや研修を行うことで地域のグローバル化に 貢献する。
- ・英語を中心とした外国語教育を促進させるとともに、本学における外国人教員による外国語教育を充 実させる。
- ・アクティブラーニング、少人数クラスによる英語および中国語、韓国語の授業を促進する。
- ・留学支援制度タイプA カナダの獲得を目指す。

所属関係教員

社会福祉学部 田口 江島 名塚 岡野

看護学部 小林洋子 鈴木淳貴

リハビリテーション学部 中里

図書部会・委員会 活動報告

【社会福祉学部・看護学部・リハビリテーション学部・短期大学部】

実践(活動)事項

- ・ 春期オリエンテーションにおける図書館利用指導 (1年)
- ・ 基礎演習 I ・ II における図書館利用指導
- ・ 平成30年度図書館予算の策定および図書館用購入図書等の選定
- ・ 契約電子資料の利用促進に向けての広報活動
- ・ 和雑誌タイトルおよび視聴覚資料の充実 (3キャンパス)

委員会実施報告

(部会) 第1回 : 4月7日

- (1) 平成30年度年間活動計画(中・長期活動計画を含む)
- (2) 平成30年度図書館予算案の策定
- (3) 新年度準備についての日程調整 他

(部会) 第2回 : 12月19日 ※ 3キャンパスの合同図書委員会も兼ねて実施

- (1) 図書館関連規程の見直し
- (2) 予算執行状況の確認および品切・絶版等の補完に伴う追加選定
- (3) 和洋雑誌の契約更新及び休刊等に伴うタイトル補完
- (4) 雑誌架の追加および書架見出し等の統一
- (5) 図書館システムメンテナンスに伴う日程調整
- (6) 平成30年度の総括 他

(部会) 第3回 : 3月(予定)

- (1) 平成31年度年間活動計画(中・長期活動計画を含む)
- (2) 新年度準備について 他

(委員会) 各キャンパスにて実施

第1回 : 5月中旬 (1)年間活動計画(中・長期活動計画を含む)

(2) 図書館予算の策定および購入図書資料等の選定(購入希望調査) 他

第2回: 7月上旬 (1)購入図書資料等の選定(3キャンパス発注手続き)

(2) 和・洋雑誌の更新準備および手続き後(年末)の追加選定準備 (品切・絶版による資料調整/不足分野の資料充実等)

第3回 : 3月 (予定) (1) 図書館システムの定期メンテナンス報告 (3キャンパス)

(2) 新年度準備について 他

課題(問題・改善)反省事項

- ・ 本館と分館(藤岡分館・前橋プラザ分館)の更なる業務連携の向上
- ・ レファレンスサービスの向上およびスタッフ実務研修の充実
- ・ 各分野の講義・課題・実習等に対応した図書館資料の充実および予算確保
- ・ 書架の狭隘化に伴う書庫スペースの確保

31 年度の展望

- ・ 基本資料 (レファレンスブック) および電子資料の整備
- ・ 基礎・専門演習における契約電子書籍の利用促進 (広報活動の活発化)
- ・ 学内自己点検評価報告書作成への対応 (認証評価第3回受審へ向けて)

所属関係教員

【前橋キャンパス】 ◎塚本 ・ ○高草木 ・小池 ・ 山岸 ・ 鈴木(淳) ・ 清水(久)

【藤岡キャンパス】 ◎塚本 ・ 丸山

【本町キャンパス】 ◎星野(真) ・○多田

個人情報保護部会 活動報告

【社会福祉学部・看護学部・リハビリテーション学部・短期大学部】

実践(活動)事項

- ・個人情報漏えい対策に関するアンケート調査の実施と分析
- ・学生に対する SNS 指導のための資料作成
- ・個人情報の利用目的の公表に向けた働きかけ

委員会実施報告

第 1 回 4 月 25 日 委員会活動計画について 等

第 2 回 12月 19 日 SNS 指導について 等

第 3 回 1 月 16 日 個人情報漏えいに関するアンケートについて 等

課題(問題・改善)反省事項

個人情報保護のための対策を委員会で検討したが、費用と効果の関係について、検討事項が多く、有効な対策を十分に打ち出すことができなかった点が課題として挙げられる。 また個人情報漏えいに関するアンケートについて、1回だけの調査では不十分なため、今後継続してアンケート調査を実施していくことが課題である。

31年度の展望

関係部署との連携を密にして、個人情報漏えい防止のための対策について、さらなる検討を行い、有効な対策を確立していく予定である。また30年度に実施した個人情報漏えいに関するアンケート結果に基づいて、31年度ではアンケート項目についてさらなる検討を行い、アンケートを実施する予定である。

所属関係教員

前橋キャンパス ◎白石 ○岡野 川端智 関口 矢嶋 渡邊 名塚

藤岡キャンパス ◎小澤 林

本町キャンパス ◎平形

ハラスメント部会 活動報告

【社会福祉学部 短期大学部 看護学部 リハビリテーション学部】

実践(活動)事項

- ・相談内容の情報共有(相談内容の報告と対応策の検討)
- ・相談体制の整備 (テストメール、学部間連携の相談体制の検討、)
- ・FD・SD 研修会の運営(研修会内容の企画・運営)
- ・FD・SD 研修会グループのまとめ

委員会実施報告

第1回 7月 4日 15:00~16:40

・各キャンパス相談状況の報告 ・今年度の中長期の活動について

第2回 8月25日 12:40~14:00

・相談報告 ・テストメールの結果報告と今後の相談体制についての検討 ・9.5 FD・SD 研修の打ち合わせ

第3回11月 3日 13:50~14:20

・相談報告 ・9.5 FD・SD 研修後の取りまとめについて ・リーフレットの活用についての現状報告

第4回12月20日 16:00~17:30

・相談報告 ・9.5 FD・SD 研修後の取りまとめについて

課題(問題・改善)反省事項

今年度それぞれのキャンパスにある相談窓口へのテストメールやFD・SD 研修により、本学の相談体制の検討が必要である事が明らかとなった。今年度相談のあったケースにおいては、当該キャンパスのハランメント委員のみではマンパワーが足りないという事が課題として挙げられる。幸いにも当該キャンパスのハラスメント委員による迅速な対応によって、事態が拡大しなかったが、今後は事案によっては3キャンパスで協働し、学生間および学生と教員などの利害関係が働かない人が相談員となるなどの対応が必要である。また、今年度9月に開催したFD・SD 研修会の中で頂いた教職員の貴重なコメントを部会としてまとめ、それらを情報共有することにより指導や教育とハラスメントの検証や学生のみならず教職員も含めた人権の保障にも繋がると考えられる。

31年度の展望

上記に挙げた内容を整理

- ① 3キャンパス合同の相談体制の構築(相談窓口、窓口からの流れ、事案の検証)
- ② FD・SD 研修後の取りまとめ→教員への情報共有用の資料のまとめ
- ③ 研修内容の検討 (教職員への継続したフォローアップ学習機会の検討)

所属関係教員

藤岡キャンパス 鶴田・塚越・松村 本町キャンパス 宮寺・村山

前橋キャンパス 久保田・清水(久)

社会福祉学部 短期大学部

学生委員会 活動報告

【社会福祉学部·短期大学部】

実践(活動)事項

・交通安全講話(全学) 4/4・新入生歓迎サークル紹介期間 4/4~30・防犯講話(1 学年) 4/16・親睦スポーツ大会学生実行委員会 4/5,11,17,24・事前準備 5/1・親睦スポーツ大会 5/2・寮生活指導 4/2,15,5/18,21,6/19,12/19 寮避難訓練 4/16・ディズニー 5/15、クリスマス 12/15,私大スポーツ大会準備 4/10~10/9・会議 6/7、7/19、9/6、11/8・昌賢祭学生実行委員会 5/9~11/16 会議 6/13,27、7/11、18,9/26,10/3,10,17、24、31、11/7、8,14 私大スポーツ大会 10/6,7・昌賢祭 11/17・デートDV防止講話 1/28 (1 学年)・サークル指導 5/24・消費者被害防止講話(1 学年) 12/10・心の健康講演 10/26 (4 学年)子宮頸がん講話 10/4 (2 学年)・年金セミナー 12/2 (2 年) ※各利テン、各演習、学生課で随時学生指導を実施※学生生活満足度アンケート調査(準備会議、実施 2/9、集約作業 2~8 月、9 月 1R 室へ提出)

委員会実施報告

- 事前打合3月14日(中・長期活動計画、年間活動計画の策定)
- 第1回 4月24日(機構改革により30活動計画及び役割規程改訂等確認)
- 第2回 5月30日(生活指導、親睦スポ反省、アンケート集約報告、サークル活動申請、学生相談室、他)
- 第3回 6月27日(夏期休業中の指導、学生のマナー向上対策、満足度調査集約状況、他)
- 第4回 7月25日(前期学生指導の総括、マナー 向上対策、FD・SD 研修会への準備、夏期休 業中の留意事項、等)

- 第5回 10月3日(夏期休業中の学生の動向、私 大スポーツ大会、昌賢祭について)
- 第6回 11月28日 (学生指導について: バド、 昌賢祭まとめ、30年度学生満足度調査に ついて)
- 第7回 1月23日(30学生委員会活動報告の検討) 第回 2月日(2019年度活動報告案について) (各学年、学生課、2018活動計画報告案と2019年度活動計画の検討)
- ※委員会の他、教授会・学部会議・学年会で学生指導について随時会議・連絡を実施

課題(問題・改善)反省事項

本年度も「咸有一徳」「学生生活心トンアック」を携帯させ、演習時やオリテン等機会を捉えて指導を実施した。内容は、生活指導を中心とした事故・災害、心の病、健康面、人間関係、一人暮らし生活等である。学生の日常の規則正しい生活とマナーの遵守が、学業の充実やサークル活動、ボランティア活動の活発化につながるよう細かい指導を継続した。前期には、昌賢学園全学生が参加(約1300名)した親睦スポーツ大会で交流を深め、後期には昌賢祭や学生向け講座を演習時に取り入れ、学生の身近な問題を改めて学習した。学生の質が毎年変化している現実をとらえ効果ある学生指導を心掛けたい。課題として、学生の懲罰指導が学年主任会に移行しているが、学生生活指導と直結した業務であり連携が必要である。むしろ、満足度調査は大学全体のDPに関わる調査内容であり、他大学同様IR室・自己点検評価委員会で推進していく事を検討していただきたい。

こころの悩みを持つ学生も見受けられ、学生相談、中途退学者の防止対策も引き続き、学年団や他委員 会等とともに連携して推進していきたい。

2019 年度の展望

次年度は、「知行合一」の実践に向けて、昌賢学園親睦スポーツ大会、昌賢祭等のイベント等を通じ、円滑な友人関係を築き、充実した活力ある学生生活の実践を、勉学と生活の両輪で推進したい。また学生とのきめ細やかな面談や指導を通じ、中途退学や問題行動を未然に防止したい。「咸有一徳」、「学生生活心トブック」の有効的活用や演習時で効果ある講座を導入していきたい。学生生活や学習状況の把握を深め、より細かい指導が必要な学生もいることを念頭に置いて学生指導を推進する必要がある。また、30年度の課題について対応できるよう委員会機構の点検をおこなう。

所属関係教員

◎櫻井、○梅山、時田、山岸、柳澤、土屋、清水ク、長津、榎田、渡邉、茂木、大島、星野

進路指導部会 進路指導委員会 活動報告

【社会福祉学部】

実践(活動)事項

- 1. 卒業前年度学生に対し進路の意識付けを行うべく、マイナビへの登録及び適職診断の実施。
- 2. 卒業学生に対し「就職指導」を実施。
- 3. 履歴書及び、面接マナーのポイント等具体的に指導を行う。
- 4. 卒業学年担任と就職課との連携を図り、個々の学生を把握し、細やかな個人指導を実施。
- 5. 就職説明会及び介護就職面接会等の企画及びサポートの実施。
- 6. WEB ポータルの内容精査。

委員会実施報告

第	1回	5月23日	第 6回	10月10日	
第	2回	6月13日	第 7回	10月24日	
第	3回	7月11日	第 8回	11月28日	
第	4回	7月25日	第 9回	12月12日	
第	5 回	9月12日	第10回	1月7日	(3月まで実施予定)

課題(問題・改善)反省事項

- ・卒業年次の学生については、早期に希望職種をはっきりさせることが好ましいため、入学初年度から の意識付けと進路指導は重要である。
- ・学生自身がどうしても受け身になり、積極的に就職活動に臨む体勢ができていない者が増えつつある ため、就職に対する意識の高揚をはかることが急務である。
- ・WEB ポータルを利用したキャリア意識調査を学生個人指導に反映させるとともに、個人指導の充実を図ることが急務である。
- ・進路決定に関しては、学生の就職先に対する早期意識付け、さらには保護者の理解・協力も必要であ り、日頃の学生対応時はもとより三者面談時の確認・伝達事項及び対応方法等についても再度検討する 必要がある。

30 年度の展望

- ・『キャリアサデザインノート』及び『意識調査』を WEB ポータル上から学生端末により個々の成長を図り、4年間を通して使いやすいものにする。
- ・業者テストの結果をふまえ、4年間の成長が確認できるような一貫性のあるものとする(次の学年に引き継ぐ)。
- ・学力及び社会人基礎力不足について学生が真に自省しその結果、各種講座を受講することで学力、能力を高めようとする意識を持つことにつなげる。
- ・キャリア意識調査の結果を踏まえ、卒業学年担任とともに連携し、学生個々の指導の充実を図る。

所属関係教員

◎長津 ○時田 ・新木 ・鈴木秀 ・鈴木靖 ・永藤 ・真下

進路指導委員会活動報告

【短期大学部】

実践(活動)事項

- ・一般常識テスト〔業者試験〕の実施:エントリー試験
- ・個人及び三者面談の実施
- ・担任を中心に個別対応を必要に応じ実施
- ・編入希望者に対する論文及び面接指導
- ・学内外就職面接会への参加及び学外での就職面接会への参加の促し
- ・就職課との連携による学生対応

委員会実施報告

第 1回 4月 25日 第 4回 9月 19日 第 7回 12月 12日

第 2回 6月 20日 第 5回 10月 24日

第 3回 7月 11日 第 6回 11月 7日

課題(問題・改善)反省事項

就職活動に対し消極的な学生もおり、その者に対するさらなる個別面談・個別指導の必要性を痛感 している。

また、資格取得が就職活動に対するモチベーションや活動意欲に繋がることも考えられ、とりわけ 医療事務・秘書コース在籍学生に関しては試験対策委員会との連携、情報共有も図り就職についての サポートをしていくことが求められる。

その他、社会人(委託訓練生)においては、昨年に比べ活動開始時期は早かったものの、一部活動開始が遅れている者もいるのが実状である。次年度以降も課題の一つとして社会人学生の指導・対応を心掛けていく。

31 年度の展望

- ・医療事務秘書コース在籍学生増に対し、医療機関のさらなる就職先確保に努める。就職課との連携を 密にするとともに、学科においても実習巡回先等を中心とした開拓を図っていく。
- ・介護福祉士国家試・医療秘書検定試験対策の強化の徹底。資格取得の重要性を認識させ、学生自身の モチベーション向上を図るとともに就職活動の早期取り組みに繋げていく。
- ・編入学試験、就職試験に備え文章力の強化を図る。

所属関係教員

◎長津・○土屋・辻・清水春代・星野・富澤・清水久二雄

介護実習委員会 活動報告

【短期大学部】

実践(活動)事項

- ·30年度 生活支援実習 (I-①②、II-①②) の実施
- 実習前試験の実施
- ・実習関係書類の内容の点検及び確認
- ・実習事例報告会実施に伴う、学生委員会の立ち上げ及び委員会のサポート
- · 事例実習報告会開催 (3/12)

委員会実施報告

第1回	4月11日	第8回	9月19日
第2回	4月25日	第9回	10月3日
第3回	5月16日	第10回	10月24日
第4回	6月20日	第11回	11月7日
第5回	7月11日	第12回	12月12日
第6回	8月17日	第13回	1月9日
第7回	8月25日	第14回	1月23日

課題(問題・改善)反省事項

近年の学生の状況を勘案すると、これまで以上の関わりや指導が必要であると考えられる。実習関連科 目のみならず、各科目担当教員等からも学生の様子や状況を確認するとともに、情報を共有し対応して いくべきであると考えている。

31 年度の展望

介護実習委員会としては、介護系コース在籍の全学生の資格取得を目標としており、そのためには、介護実習が必要不可欠となる。実習の重要性を全教員が認識し、学生自身が意義ある実習となるよう、実習指導方法、実習関係書類等の更なる見直しを行い、教育の強化を図っていく。

所属関係教員

◎矢嶋 ○辻

足立、白井、片桐、土屋、柳澤、中嶋、清水(久)、清水(春)

医療事務実習指導委員会 活動報告

【短期大学部】

実践(活動)事項

H30 年 8 月 21 日 **医事実習 I** (1 年生) 前橋赤十字病院にて見学実習

「病院の仕事や医療事務職が携わる基本的な業務を理解する」ことを目的とし、 6 月移転したばかりの新病院で、ドクターヘリ、院内施設などの見学と、医療秘書の仕事や求められる資質等についての説明を受けた。(引率教員 2人)

H30 年 8 月 20 日~H30 年 9 月 15 日 (20 日間) 医事実習Ⅲ (2 年生) 各病院

「病院の受付業務、医師事務作業補助業務、算定業務等を実践的に学び、将来の医療事務、医療秘書としての資質を養う」ことを目的とし、各担当教員は、巡回にて学生指導、実習日誌指導の他、次回実習受け入れのお願いした。 7/23 実習事前指導: 実習にむけての心構え、最終確認事項などの指導

H31 年 2 月 12 日~H31 年 2 月 23 日 (10 日間) 医事実習Ⅲ (1 年生) 各病院

「病院の受付業務等を通して医療事務職に求められる基本的知識・技術を理解する」ことを目的とする。 1/29 実習事前指導:実習にむけての心構え、最終確認事項などの指導

各病院担当者は、巡回にて学生指導、実習日誌指導の他、次回実習受け入れのお願いをする予定。

委員会実施報告

第 1回 4 月 25 日:今年度の委員会方針決定

第 2回 6 月 20 日:医事実習Ⅲの巡回指導担当教員の決定と留意事項の共有・事前指導の打

ち合わせ

第 3回 12 月 12 日:医事実習Ⅱの巡回指導担当教員の決定と留意事項の共有

第 4回 1 月 9 日:医事実習Ⅱの事前指導落ち合わせ

課題(問題・改善)反省事項

①実習先確保について

依頼作業の遅れから、確保が非常に困難であり、学生への周知が遅れた。実習地域の選定と実習病院 の依頼は5月末位までに終了すること。

- ②実習評価表回収の遅れ。一 依頼書、契約書に回収時期を盛り込むことを検討。
- ③医事実習Ⅱの実習報告会を行い、医事実習Ⅲにつなげたい。④車いすの使い方などの授業時間の確保。

31年度の展望

H31年度からは、短大生の実習受け入れに群馬県医師会が協力してくれる予定。

専攻科の実習先は、現在2病院確保済であるが、学生の居住地に合わせて新規開拓の予定。

医事実習Ⅱ、Ⅲについて、学生の進路や希望により、病院、クリニック、歯科医院、調剤薬局なども対象とし、実習先の開拓をする。

所属関係教員

清水春、中嶋、白井、片桐、土屋、柳澤、矢嶋、辻、清水久

社会福祉実習委員会 活動報告

【社会福祉学部】

実践(活動)事項

- ・相談援助実習を87名が88施設・機関で行なった。実習生に対して実習事前指導、実習中の巡回指導 と帰学日指導、実習後の指導を行なった。
- ・実習施設との連絡・調整
- ・新規実習施設・機関への実習承諾書、実習指導者調査書の提出依頼
- ・関東信越厚生局への実習施設の申請
- ・実習事前学習の指導及び勉強会等の案内

委員会実施報告

毎週金曜日に打合せを実施し情報共有を図った。

8月3日 相談援助実習直前指導 12月19日 実習事前学習 (ボランティア) 指導 1月29日 実習報告会実施

実習や事前学習での携帯電話、SNS 利用、災害時の対処法等の指導を行なった。

課題(問題・改善)反省事項

- ・実習に関して大きな事故等発生することなく実施することができた。
- ・実習報告会の代表者決定に対する評価基準を作成、評価を行った。
- ・実習施設・機関と学生の情報共有や協議方法と内容の検討
- ・相談援助実習履修資格及び中止等の基準と相談援助実習資格試験の見直し
- ・「実習へのガイドブック」に加筆、修正を加え、改訂を行った。

31年度の展望

- ・相談援助実習を54名が履修予定、実習内諾をいただき、事前学習ボランティアに繋げる。また、新規実習施設・機関に対しては実習承諾書等の書類を依頼し、書類の整理と申請の実施。
- ・相談援助実習履修資格及び中止等の基準と相談援助実習資格試験の見直しに伴う学生への指導方法の 再構築。
- ・カリキュラム改正を見越した実習時期や規程の検討

所属関係教員

富澤 松永 川端奈 柳澤 茂木 乾

実習指導部会 精神保健福祉援助実習委員会 活動報告

【社会福祉学部】

実践(活動)事項

精神保健福祉援助実習に関する計画、実習機関への実習依頼、実習事前指導・事後指導、巡回指導、 実習報告会、実習報告書の作成について協議するための委員会を複数回にわたって開催した。

委員会実施報告

第1回 4月16日 H30・31年度精神保健福祉援助実習について協議

第2回 5月21日 H30・H31年度精神保健福祉援助実習について協議

第3回 6月18日 H30・H31年度精神保健福祉援助実習について協議

第4回 7月23日 H30・H31年度精神保健福祉援助実習について協議

第5回 8月6日 H30・H31年度精神保健福祉援助実習について協議

群馬病院におけるボランティア活動について

第6回 9月10日 H30・H31年度精神保健福祉援助実習について協議

第7回 10月22日 H30年度実習報告会について協議

H31 年度精神保健福祉援助実習について協議

群馬病院におけるボランティア活動の振り返り

第8回 11月19日 H30年度実習報告会について協議

H31 年度精神保健福祉援助実習について協議

第9回 12月 17日 H30年度実習報告会について協議

H31 年精神保健福祉援助実習について協議

H32 年度精神保健福祉援助実習に向けたオリエンテーションについて協議

第10回 1月21日 H31年精神保健福祉援助実習について協議

H32 年度精神保健福祉援助実習に向けたオリエンテーションについて協議

第11回 2月4日 H31・H32年精神保健福祉援助実習について協議

課題(問題・改善)反省事項

(1) 履修学生の指導について

実習先からは概ね良い評価を頂いている。ただ、履修学生のなかには実習中、精神的・身体的負担を 大きく感じた者もおり、丁寧な指導・援助が必要な者もあった。次年度は、このことも踏まえ、丁寧な 指導・援助を行うよう配慮していく。

(2) H32年度の精神保健福祉援助実習について

現段階で、精神保健福祉援助演習・実習指導について履修希望を表明している学生が十数名いるとのこと。履修者には丁寧な指導を行う。

31 年度の展望

- (1) 履修学生への丁寧な事前・事後指導を行い、実習をより効果的な学びの機会へと発展させる。
- (2) 実習機関との連携を深め、新規実習先確保など、実習教育の充実を図る。

所属関係教員

◎鈴木秀夫、○新藤健太、乾明美

幼保実習委員会活動報告

【社会福祉学部】

実践(活動)事項

1. 各実習での学びを系統的に積み上げるための教員間の連携

幼稚園教育実習および保育実習 $I \cdot II$ (保育所 2 回、施設 1 回)の計 4 回の実習は、実習中だけでなく事前・事後指導および実習事務全般の流れが重層的であることから、子ども専攻の全教員で情報共有を図り、実り多い実習となるよう配慮した。

2. 事前・事後指導の充実

本学は事前指導の時間数を国の基準より多く確保しており、授業の一環として1年次からの附属鈴蘭幼稚園での実践活動や、実習先での事前ボランティアの実施も定着している。それらの機会を活用し、現場と学内の往還的な学びを重視した指導を強化した。

3. 特別な配慮や個別的指導の必要な学生への指導

昨今の学生の多様化により、実習に際して特別な配慮や個別的指導の必要な学生(障害学生を含む) が存在する。個々の事情や特性に配慮した、実習先選定や実習指導に尽力した。

委員会実施報告

第1回 5月14日

第2回 7月30日

第3回 10月 3日

第4回 2月 6日

課題(問題・改善)反省事項

2018 (平成30) 年度よりスタートした新たな保育所保育指針、教育・保育要領で示された、10の"幼児期の終わりまでに育ってほしい姿"と関連づけながら、養成校と保育現場が協働する実習指導への転換が課題である。今後は、より意識的に実習園と有機的な連携を図ることにより、現場と協働する実習モデルのあり方を探ってみたい。また、田中先生の幼稚園長就任により、大学側の実習指導(保育所)の指導体制にマンパワー不足が生じたことは課題である。

31 年度の展望

2019 (平成 31) 年度入学生より、保育士養成課程の新カリキュラムが適用となり、幼稚園教諭の教職課程においても「特別支援教育」に関する科目が必修化される。体験をとおして保育者に必要な力を身につけるため、実習先でのボランティアを含めて現場への積極的な参加を促す。また、学生が持ち帰った体験を教員が意味づけして返す実習指導(事前・事後)を強化したい。

所属関係教員

川端・田中・真下・吉澤・赤堀

小学校教育実習委員会 活動報告

【社会福祉学部】

実践(活動)事項

1 観察実習

○3年生10名は、教育実習事前事後指導(5~6月、金曜1~2限)の授業の一環として、前橋市立大利根小学校にて、6日間の観察実習を行った。特別支援学級の観察は3年目となり、学生は大きな収穫を得ている。また、大利根小で実習をしている本学4年先輩の研究授業参観、その後の授業研究会(4年先輩と3年学生合同)を実施することができた。学生は、1年後の教育実習に向け、自己の適性や課題を発見することができた。

2 教育実習及び巡回指導

○4年生9名は、5・6月に母校等にて本実習(3名は県外:栃木2、青森1)を行った。本部会の4名の教員で巡回指導にあたり、実習校の評価はおおむね良好であった。

3 基礎学力養成講座

 \bigcirc 1 \sim 3 年の主に教員・公務員を目指す者に一般教養・教職教養等を身に付けさせることを目的としている。「教育支援センター」が担当しており、多くの学生が意欲的に受講している。

4 教員採用試験対策

○3 年次から授業または自学自習用として、副教材「月刊教員養成セミナー」を活用している。特に、2次試験対策として、面接・模擬授業・論作文・場面指導の際、使っている。教育支援センターの小林先生(特別支援教育の概論、面接指導)と協力して指導した。

5 先輩・卒業生、元校長等による指導

○教育実習・教員採用試験・教育現場について、1年次より計画的に4年教採合格者・ 先輩学生・現役教諭(本学卒)・元校長等の講話を聞けるようにした。その結果、1年 次より自己の進路について考えることができた。

6 教育支援センターとの連携

○教育支援センターにある教師用指導書、児童用教科書、学習指導要領、漢字指導用黒板、OHC等、模擬授業や教材研究に利用できるものは最大限活用するよう指導している。また、教採の時期だけでなく日頃より、個別面談指導・教採の悩み相談についても小林先生と連絡と取りあい、指導をしてきた。

委員会実施報告

第1回 平成30年4月18日(水) 小学校教育実習名簿及び巡回指導分担、観察実習に ついて

第2回 平成30年6月27日(水) 観察実習の報告、小学校教育実習巡回の報告

第3回 平成30年11月14日(水) 社会福祉学部改組について、教員採用試験結果、就職内定先、4年生講話

第4回 平成31年2月5日(火) 春休み教採勉強会計画立案、小学校教育実習委員会報告の検討

課題(問題・改善)反省事項

1 観察実習

○学生は朝行事から2時間目・次の20分休みまで大利根小におり、授業だけでなく 休み時間に子どもと触れ合い、児童理解も図ることができた。一方、児童との距 離の取り方が難しく、やや馴れ合いぎみな場面もあった。4年次6月の本実習に 向け、不安が軽減される機会となった。

2 教育実習及び巡回指導

○大学側の理解もあり、東北地方等遠方の実習校巡回も行っており、全学生の生の実習 の様子を把握できた。

3 基礎学力養成講座の欠席及び教採2次試験対策

- ○講座への無断欠席が一部にあった。今後、教育支援センター、担任と緊密な連携を図 り改善したい。
- 2 次試験の面接は重要視されている。一層、外部講師の招聘や協力体制、1年次からの基礎演習・授業での発表場面の設定等、日頃から表現力・コミュニケーション力を 養成したい。

31年度の展望

- 1 「観察実習 (3年次:大利根小)」の充実に繋がる学習を1・2年次計画(例:1・ 2年への報告会)したい。
- 2 教員採用試験合格を目指し、「基礎学力養成講座」の出席率をあげること、教採合格 者の後輩への指導等を行い、自学自習のできる学生を育成したい。また、春休み・夏 休みの教採勉強会を複数教員で取り組み、教採合格率をあげたい。
- 3 今後、学部改組が行われた場合、本コースは、介護等体験が必須となるので、体験場所について検討する必要がある。

所属関係教員

小学校教育実習部会 櫻井秀雄、山岸裕美子、梅山文秀、吉澤 幸、時田詠子

中·高·特支 教育実習委員会 活動報告

【社会福祉学部】

実践(活動)事項

- ・ 平成30年度中・高・特支教育実習年間指導計画を作成し、計画にそって活動した。
- ・ 1年生に向けて、3年次で行う中・高教育実習のオリエンテーションを実施し、2年生に向けて、4年次で行う特支教育実習オリテンを 行った。希望先を確認した後、書類等の配布及び説明を行い、年度末休暇中に実習先への内諾書等の依頼方法を指導した。
- ・ 一般教養の力を定着させるため、1 年生~3 年生を対象に年間を通じて(不定期;隔週土曜日や夏期·冬期·春期集中講座)東京アカデミーによる一般教養講座を実施した。
- ・ 今年度、教育実習を行なった学生は、中学校 4 名 (3 年生 3 名、4 年生 1 名)、高等学校 2 名 (4 年生 2 名)、特別支援学校 8 名の延 14 名 であった。中・高は、3 年次・4 年次 (編入) の 3 週間 (5 月~6 月中、10 月~11 月)、母校での実施、特別支援学校は 4 年次に 2 週間 実施し、無事に終了した。教育実習中は実習委員会の担当者が巡回指導を行い、実習校への御礼と学生指導に努めた。
- ・ 教育実習終了後、「平成30年度教育実習報告(中・高・特支)書」を作成し、事後指導において実習の振り返りを行った。1、2、3年生を対象に次年度の教育実習に向けた取組として、3、4年生による教育実習報告会を実施した。
- · 3年次の後期(教採対策講座Ⅰ)から4年次の前期(教採対策講座Ⅱ)、教職教養、専門教養を中心に教員採用試験対策を行った。
- ・ 7月に各自治体で実施される教員採用試験に向け、4年生の前期に願書・小論文の書き方、面接指導を行い、4、5、6月に教員採用学内 模擬試験を実施した。7月下旬から8月中、教育支援センターと連携しながら、ほぼ毎日、教員採用試験二次対策(面接・小論文・模 擬授業・場面指導の指導)を行なった。卒業生による面接試験指導を行った。
- ・ 平成31年度実施・教員採用試験対策として、採用試験に合格した4年生から1,2、3年生を対象に各自治体の試験傾向、面接試験対策を 行った。
- 教育支援センターと連携しながら、特別支援学校教諭枠のある自治体への大学推薦を行なった。
- 平成31年度、臨時的任用教員をしながら本採用を目指す学生への相談・支援を行った。
- 教育支援センター主催の東京都教育委員会、福島県教育委員会の教員採用試験説明会に参加した。
- ・ 群馬県立高崎高等特別支援学校の文化祭のボランティアを行った(1 年生〜4 年生)。

委員会実施報告

第1回4月24日 教育実習校の確認及び巡回指導教員決定、書類の確認、大学推薦枠、H29度卒生の動向等

第2回 10月 31日 教育実習報巡回報告、教員採用試験結果報告、コースの現状と課題等

第3回 H31.1 月7日 平成30年度のまとめ、平成31年度に向けて科目配当学年の検討・今後の課題、春期休暇中の対策講座の予定につ

いて等 ※ 実習担当者間で随時連絡を取り合いながら進めていった。

課題(問題・改善)反省事項

- ・ 教育実習実施にあたり、①礼儀・挨拶、環境美化活動の実践を実習校においても率先して行なうこと、②指導教諭の指導に従うこと、 ③生徒を一番に考えて行動すること、④教材研究を怠らないことを厳しく指導した。本学生の良い部分が出せたと思うが、学生により 力(授業実習、生徒理解)の差が出てしまう。授業実習のスキル向上と各学生の知識を充実させることが課題である。
- ・ 本学は中・高を基礎免許として特別支援学校教諭を目指す学生が殆どである。今年度、大学推薦を含めた一次試験合格者は、特別支援 8名中5名(延)、二次試験合格者は、特別支援4(延)名であった。今年度、私立高校(福祉科)の臨時採用が1名おり、福祉科の免 許状が取得できるメリットを活かすことができた。他2名が群馬県臨時的任用教員の採用希望である(8名中6名が教員)。

31年度の展望

- ・ 平成30年度も4年生の学校教育コースの担当者と連絡を密接にとりながら、情報交換を行い、教員採用試験の合格者を増やしていく。
- ・ 中学校や特別支援学校における学習支援ボランティアを推進し、「学校」の仕組みを知るようにする。
- ・ 教員を目指す学生の意識を高めるためにも、1年次の早い段階から一般教養や面接に必要な知識・技能・態度を養成していく。

所属関係教員

◎江原、○大竹 小林 鈴木(淳)

公務員等対策委員会 活動報告

【社会福祉学部】

実践(活動)事項

- ・基礎学力養成講座のバックアップ機能としての活動
- ・基礎学力養成講座未受講者への支援活動
- ・「公務員」に係る学生への啓発

委員会実施報告

第 1回 4月11日

第 2回 7月13日

第 3回 9月25日 公務員対策説明会

課題(問題・改善)反省事項

- ・公務員志望者の基礎学力養成講座受講の推奨を積極的に行うこと。
- ・基礎学力養成講座が有料で、高額のため、志望者の中には受講しない場合があり、そのような学生へ のバックアップを図っていくこと。
- ・委員ゼミのバラエティーを増やしていくこと。(委員の増員)

31年度の展望

- ・上記課題を踏まえて、活動計画を立案していきたい。
- ・基礎学力養成講座を推奨し、受講者を増やすため、学生への働きかけを積極的に行っていきたい。 そのために、教育支援センターとの連携を模索していく。

所属関係教員

白石・梅山・岡野・茂木・新木・森田・真下

社会福祉士国家試験対策委員会 活動報告

【社会福祉学部】

実践(活動)報告

<委員会の目的> 社会福祉士国家試験に関する指導、各種講座、模擬試験を実施し、社会福祉士国家試験受験者の合格を目指す。

<活動事項>

- (1) 各委員による講座(ゼミ)を実施(4年生対象、学習方法の個別指導を強化中)
- (2) 朝の勉強会(通称:朝学)の実施(4年生対象、4年生以外の希望者も参加可能)
- (3) 月例テストの実施(特講内で行なった問題の理解度を確認3、4年生はデータの推移から課題抽出)
- (4) 社会福祉特講 I ~IVによる指導
 - I (1年): 学習方法の獲得(文章を読み解く能力・調べる能力)
 - Ⅱ (2年):グループ学習による知識向上の達成感の獲得と学習の習慣化
 - Ⅲ (3年):国家試験の問題を読み解く力の獲得と各科目の学習内容の明確化
 - Ⅳ(4年):解答時間等の受験テクニックの獲得、各自の得意・不得意科目の明確化と対策

特講IVでは、月例テストの成績により別時限での対策クラスを設け、重要ポイントの暗記を目的とし、同じ問題を解けるまで何回も実施した。後期は学習方法に関する指導に加え、勉強時間の確保を目的とし学生個々への対応を実施した。

(5) 次年度の対策に向けた共通模擬試験

年度末オリエンテーション(2月8日)終了後、社会福祉学部 $1\sim3$ 年の国試受験予定者及び短大希望者を対象に共通模擬試験を実施。

(6) 予備校対策講座の活用と外部模擬試験

後援会より補助を頂き、東京アカデミーの試験対策講座を通年(60 コマ 90 時間) 開講した。模擬試験は、年間を通して 4 団体の模擬試験を実施している。(そのうち、1 団体は本番を見越して東京会場での受験)

委員会実施報告

第1回 4月18日 第4回 9月13日 第7回 2月13日(予定)

第2回 6月6日 第5回 10月31日 学生指導の状況の共有と委員間の連携を図った

第3回 7月4日 第6回 12月5日

課題(問題・改善)反省事項

- (1) 特講Ⅲ・Ⅳの内容を変更、成績中位層の学力強化を目的とし、同じ問題を何回も解くことにより重要ポイントの把握を行い、 月例テストで確認を行った。
- (2) 4 学年会議において、国家試験対策の状況の報告や、学生個々の状況報告を行い、クラスアドバイザーとの情報共有を図った。引き続きクラスアドバイザーとの情報共有は必要である。
- (3) 委員間やクラスアドバイザーとの情報共有について、素早くできる手段の検討が必要である。
- (4) 早期資格取得への動機づけと成績低迷者への学習支援への検討
- (5) 体調管理 (インフルエンザ) への対応の検討

31 年度の展望

- (1) 社会福祉士国家試験合格率の向上を図る。
- (2) 社会福祉士受験資格指定科目の単位認定の整合性や、それぞれの厳密性及び連動性を確保する。
- (3) 社会福祉士国家試験受験に対するルール作りと学生への徹底を図る。
- (4) 実習指導委員会、4年クラスアドバイザー、進路指導委員会を始め関係各所との連携の下、専門職養成と国家 試験対策の整合性を確立し、カリキュラム全体や就職指導等との整合性を確立する。

所属関係教員

富澤 大野 松永 大島 川端奈 白石 柳澤 茂木 新藤 乾 森田

精神保健福祉国家試験対策委員会 活動報告

【社会福祉学部】

実践(活動)事項

- ・本年度も昨年度同様、後期金曜1時限に特別教室を実施できた。
- ・前期、後期通年の特別教室は木曜、5 時限~6 時限で実施した。時間のゆとりがあり十分こなせたと考えている。
- ・3年生については授業中に小テストを実施した。精神医学、精神保健福祉学の入り口を示せた。

委員会実施報告

- 第 1回 4月 18日 受験予定者を確認し、委員の役割を決めた。
- 第 2回 6月 18日 実習委員会と歩調を合わせることを確認する。
- 第 3回 8月 6日 夏休み中の課題について検討
- 第 4回 9月 10日 気がかりな学生について・特別教室の状況
- 第 5回 11月 19日 現状確認
- 第 6回 12月 17日 国家試験に向けて
- 第 7回 1月 21日 最終特別教室30日の計画を確認
- 第 8回 2月 4日 国家試験状況についての情報交換
- 第 9回 2月 18日 (予定)振り返り、来年に向けて

課題(問題・改善)反省事項

これまでになくやる気のある学年であった。途中で受験予定者が減ったが最後まで残った 10 人はまとまり受験勉強も一緒にしてきた。良い結果が出るものと期待している。

全員が真面目に取り組み、夜遅くまで大学に残って勉強をしていた。例年との違いは不明な個所、わからない点等の確認をしてくる学生が少なかった点である。

31 年度の展望

・共通科目に弱い点を今後の課題として来年度は対策の見直しをする。

所属関係教員 ②鈴木秀夫 ○新藤健太、大野俊和、白石憲一

介護福祉士対策委員会 活動報告

【短期大学部】

実践(活動)事項

介護福祉士国家試験に合格する実力を身につけるために、授業や講座での指導を通じて、11 科目の得点率の向上を目指し、学生全員が絶対合格圏に入るように指導を行った。

- 介護福祉士国家試験対策月例講座
- ・実力試験[業者の実力試験及び本学独自]
- · 国試対策補習
- 個別指導[随時実施]

委員会実施報告

- 第1回 平成30年 5月16日(水)
- 第2回 平成30年6月20日(水)
- 第3回 平成30年8月17日(金)
- 第 4回 平成 29 年 10 月 24 日(水)
- 第5回 平成30年11月23日(水)
- 第6回 平成31年1月32日(水)

課題(問題・改善)反省事項

・介護福祉士国家試験対策講座と月例講座を開講しているが、特に成績下位の学生に対する指導の強化 を図る必要がある。

31 年度の展望

- ・介護福祉士国家試験の合格率を100%にすること。
- ・学習指導の環境整備し、授業と講座が連携する事により成績の底上げを図ること。

所属関係教員

白井、片桐、土屋、柳澤、辻、矢嶋、中島、清水久、清水春

医療事務等対策委員会 活動報告

【短期大学部】

実践(活動)事項

医療事務や診療報酬請求事務能力認定試験等の検定試験に関する対策授業等を実施した。

受験対策講座 医療事務管理士、診療報酬事務、医療秘書

医療事務管理士の取得率 92,86% (14名)

委員会実施報告

- 第1回 平成30年 5月16日(水)
- 第2回 平成30年6月20日(水)
- 第3回 平成30年8月17日(金)
- 第 4回 平成 29 年 10 月 24 日(水)
- 第5回 平成30年11月23日(水)
- 第 6 回 平成 31 年 1 月 32 日(水)

課題(問題・改善)反省事項

- ・各種資格の受験対策を実施しているが、特に成績下位の学生に対する指導の強化を図る必要ある。
- ・各種資格の合格率を100%にすること。

30 年度の展望

- ・各種資格の合格率を100%にすること。
- ・学習指導の環境整備し、授業と講座が連携する事により成績の底上げを図ること。

所属関係教員

白井、片桐、土屋、柳澤、辻、矢嶋、中島、清水久、清水春

環境美化委員会 活動報告

【社会福祉学部】

実践(活動)事項

- 1 年度内一定時期に要する活動当番等、組み合わせの事前周知事項及び新年度の環境美化活動の始動に 向けての内容
- 2 日ごろの環境美化活動の在り方から、強化方法について「清掃の5原則」の提案
- 3 外庭のタバコの吸い殻への取り組み (教職員学生委員会と協同)
- 4 昌賢祭時の3学部1学科一丸となっての環境美化活動及び開催前と後の注意事項について
- 5 次年度に向けて、一部提案―現在の「環境美化ノート」記録からの提案/教職員委員の人数について

委員会実施報告

- 第1回4/27(金)一定時期の活動——清掃分担課箇所・実習時期一覧・オリテン時の外庭清掃学年・定期試験中の清掃割り当て作成グループ・雑巾作成の図手配・ゴミ廃棄場所の図等
- 第2回6/8(金) 環境美化活動の現状から、行き届いた活動のための「清掃の5原則」(掃く・拭く・磨く・除去・備え)とマナーへの注意喚起(トイレサンダルの乱れ・T.ペーパーの私的な使用)
- 第3回7/5(金) 時間の都合で中途半端な終了となった前回の議題について再確認する。 学生駐車場の吸い殻のひどさから環境美化・学生の両委員会で見回り、回収等実施 (6/25~8/25)
- 第4回11/7(水) 昌賢祭の環境美化活動について

※10/18 (水) 3 学部の委員長で、例年通り全学部・学科で美化活動を行う事で一致。 但しその体制は時間ではなく活動範囲を定めてということと、各展示・会場の美化 活動はその人達で、という事を各学部の委員会で伝え、教授会にても通達する。

第 5 回 1/25(金) 昌賢祭の活動の振り返り 環境美化活動記録ノートについて (活動自体と記録とのギャップ?) 新道具 (モップ) の割り振りについて 教職員委員数について

課題(問題・改善)反省事項

環境美化活動の充実に向けて「何かを変えたい、どんな物を?事を?」と言うことはないか。 思うに、大大的なもの・事ではなくてささやかな道具(使用物)一つ変わらずに来ている数年?のように思える。「反省事項」に当たり、改めてそのような日々が今日まで来ているとの感有り。

31 年度の展望

反省事項としたことに焦点を当てられる委員会が持てればと思う。

所属関係教員

◎秋山 ○大島 ○辻 ・新木 ・・澤 ・橋本 ・乾 ・赤堀 ・中嶋

・清水は ・高草木 ・木村 ・和田・

FD·SD 部会 活動報告

【FD·SD部会】

実践(活動)事項

- ・FD・SD 活動における全学研修の企画運営
- ①9月5日(水)午前10時30分~午後3時
- 第1部 多様化する学生への対応力を磨く 特定非営利活動法人 ReBit 三戸花菜子先生
- 第2部 無意識に行ってしまうハラスメントを避けるために ハラスメント防止委員会
- 第3部 グループワーク/第2部の研修をふまえて
- ②9月6日(木)午前10時30分~午後3時
- 第1部 学生満足度調査報告とグループワーク 学生委員会
- 第2部 教職員研究発表会ポースター発表①
- 第3部 教職員研究発表会ポスター発表②
- ③9月12日(水)午前10時30分~午後3時
- 第1部 授業における評価の基本 京都橋大学 西野毅朗 先生
- 第2部 授業における評価の実践 京都橘大学 西野毅朗 先生
- 第3部 非常勤·常勤教員交流会
- ④1月7日(月)午後14時30分~午後16時
- 第1部 新しいブランディング戦略とその方法 進研ア ドプロモーション本部エリアプランニング部長 新井千晶 先生
- 第2部 学年会議
- ⑤2月23日(土)午前9時00分~午後0時
- 第1部 教務web ポータルシステム導入に伴う教職員向け説明会 教務カリキュラム委員会
- 第2部 認証評価システムと大学教育における質保証について 日本高等教育評価機構 伊藤敏弘 先生

委員会実施報告

第1回 4月25日(水) 11:00~12:00 前橋キャンパス2号館講師室

内容 平成30年度の計画の確認

第2回 6月20日(水) 11:00~12:00 前橋キャンパス1号館会議室

内容 ①FD·SD 研修の具体的日程・内容等の検討 ②授業改善サイクルの構築について

第3回 7月18日 (水) 11:00~12:00 前橋キャンパス1号館会議室

内容 ①研修日程の確認 ②研修テーマ・内容についての決定 ③夏期 FD·SD 研修のタイムスケジュール

第4回 8月23日(水)10:00~12:00 前橋キャンパス1号館会議室

内容 FD·SD 研修当日の具体的業務内容の確認

第5回 9月5日(水) 内容 研修当日打ち合わせ

第6回 9月6日(木) 内容 研修当日打ち合わせ

第7回 9月12日(水) 内容 研修当日打ち合わせ

第8回 1月7日(月) 内容 研修当日打ち合わせ

第9回 2月23日(土) 内容 研修当日打ち合わせ

課題(問題・改善)反省事項

- ・中長期的視野に基づく年度を越えた計画的・継続的な研修が求められるところであるが、その点に欠けた1年になってしまった。一貫した目的の明確化や中長期的な計画の立案が必要である。
- ・昨年度からの引き継ぎを含め、様々な企画提案があったが、なかなか実現に至らない。今後は学部独自のFD 研修等の充実によりひとつひとつ実現へとつなげたい。
- ・授業公開週間の実現に向けた検討が進まなかった。
- ・授業評価等の公開基準や公開方法についてはさらなる具体的検討が必要であり、実施に向けたすみやかな活動が必要である。
- ・自己点検委員会および学生委員会との連携を密に取る必要がある。
- ・藤岡キャンパス以外における、学部別委員会の開催回数や内容の充実が求められる。

31 年度の展望

- ・FD 研修(夏期 FD・SD 研修、年始の会、非常勤講師説明会)の関連性を明確にし、目標達成に向け企画実施する。
- ・各学部での独自 FD・SD 研修会の実施
- ・学生参加による FD 活動の実施
- ・外部の FD・SD 研修に参加した方の伝達報告を徹底する。
- ・他大学との連携協力体制の検討
- ・短期大学部独自のFD・SD活動の実現

所属関係教員

大竹 橋本 土屋 笹澤 足立 山岸 真下 鈴木淳 時田 柳澤 片桐 橋本 大野 鈴木靖 樋口 高橋 悴田 多田 平形

自己点検・評価・コンプライアンス委員会 活動報告

【社会福祉学部】

実践(活動)事項

- ・平成 29 年度後期授業評価アンケート結果集計し、科目ごとに担当教員に報告。これに基づいた授業 改善に関する報告書の提出を求め、報告書綴りを作成。
- ・平成29年度後期授業評価アンケート結果の分析
- ・平成29年度後期授業評価アンケート結果の公表(ホームページ)
- ・平成30年度前期授業評価アンケート結果集計し、科目ごとに担当教員に報告。これに基づいた授業 改善に関する報告書の提出を求め、報告書級りを作成。
- ・平成30年度前期授業評価アンケート結果の分析
- ・平成30年度前期授業評価アンケート結果の公表(ホームページ)
- ・第3期認証評価項目等について確認
- ・第3期認証評価にあわせた自己点検チェックシートの作成
- ・平成30年度前期及び後期授業評価アンケートの実施
- ・授業評価アンケート結果(科目別)の学生への公表

委員会実施報告

第 1回 6月 13日 平成29年度後期授業評価アンケート結果の分析

高等教育評価機構セミナー報告

第 2回 11月 14日 平成30年度前期授業評価アンケート結果の分析

授業評価アンケート結果(科目別)の学生への公表について 第3期認証評価にあわせた自己点検チェックシートについて 意見箱の設置について

委員長会議

第 1回 5月 16日 高等教育評価機構セミナー報告

第3期認証評価にあわせた自己点検チェックシート案について

第 2回 7月 18日 認証評価指摘事項に対する対応について

第 3回 10月 17日 認証評価指摘事項に対する対応について

第 4回 1月 16日 第3期認証評価にあわせた自己点検チェックシート分担案について

課題(問題・改善)反省事項

- ・年間計画を作成していたが、計画通りには進めることができなかった。委員会についても会議の 開催回数が予定より少なくなってしまった。
- ・授業評価アンケートの実施方法について。新システムを利用して行うか、外部委託するか。
- ・内部質保証のための組織作りと具体的な方法について

31年度の展望

- ・年間計画に基づいた会議の実施
- ・委員長会議の内容を各学部の委員会に周知し、常に足並みをそろえること。
- ・第3期認証評価にあわせたチェックシートに基づく自己点検の結果を検証し、改善に努める。

所属関係教員

梅山文秀、柳澤 充、大竹 勤、土屋昭雄、大野俊和、橋本広信、森田隆夫、内堀成美

教育支援センター 活動報告

【社会福祉学部】

実践(活動)事項

- ○教員採用候補者大学推薦学内選考実施
 - ・第一回 平成 30 年 4 月 18 日 (水) 11:00~ 第二回 平成 30 年 4 月 25 日 (水) 11:00~ 神奈川県 3 名、東京都 1 名、埼玉県 1 名、横浜市 1 名 計 6 名 推薦決定
- ○就職試験対策(面接指導)
 - ·期間 5月16日 (水) ~6月27日 (水) 水曜日実施
 - ・対象者 初等教育コース3年 10名(1名、25分程度 2回実施)
- ○基礎学力養成講座実施(年間18回)
 - ·受講者 66 名 (1年 20名、2年20名、3年26名)
- ○教員・公務員模試実施 1月26日(土)
- ・受験者 64 名(教員用29 名、公務員用35 名)
- ○自治体教員採用ガイダンス実施
 - ・自治体 東京都 (10月23日・火)、福島県 (2月20日・水)
 - ・受講者 初等教育コース、学校教育コース、看護学部養護教諭(1年生から3年生)
- ○関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会加入
 - ・目的 関東地区の教職課程を設置する私立大学との研究活動を推進し、あわせて情報交換、連携・協議することによって本学の教職課程の充実を図るため。
- ○関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会研修会報告会の実施
 - ・講師 時田先生
 - · 日時 平成 30 年 9 月 5 日 15:30~16:30)
- ○教育実習実施に関わる教科書等の貸出及び図書の購入
 - ・貸出冊数 30冊 ・新規図書 (新学習指導要領準拠 教育課程実践講座シリーズ)
- ○教職課程再課程認定の申請補助

委員会実施報告

第1回 4月11日(水)※基礎学力養成講座担当者会議

第1回 9月26日(水)、第2回 11月14日(水)、第3回 1月23日(水)、第4回 3月 日

課題 (問題・改善) 反省事項

- ○教育支援センターとしての会議が1回しか開催できず、組織全体としての取り組みが不十分であった。
- ○教育支援センターとしての業務内容が、教員採用試験対策に偏ってしまった。関係分掌と調整しながら 業務

内容の明確化を図りたい。

- ○業務の遂行に当たっては、初等教育コース長、学校教育コース長、養護教諭養成課程長(看護学部)、小・中・高・特別支援学校、養護実習委員会等連携を図りながら進めることができた。
- ○基礎学力養成講座への学生の取り組みについては、継続的な欠席者が固定するなど取り組みに差が見られた。学年担当者や担任と連携しながら、改めて本講座の意義を学生に伝えるなど対策を講じたい。
- 31年度の展望
- ○教員採用試験合格者の更なる増加に向け、学生の基礎的な能力(学力、資質)の向上を図るため、関係 教職員(各コース長、担任、実習委員等)と連携しながら基礎学力養成講座の充実・改善を行う。
- ○教職に限定したFDの研修を実施する。(学内外)
- ○教育支援センターとしての業務について、関係分掌と調整しながら明確化を図る。

所属関係職員

◎小林 梅山 時田、江原、森田

平成30年度							
	前橋キャ	ンパスボラ	ンティア委	員会報告	-		
						(社会福祉学部	『・・短期大学部》
会議実施報	 告						
第 1回		·成30年度	の前橋キャ	ンパスボラ	ンティア委員	会活動計画	等
H30.5.10		画 平成30					
				。 すとしてのボラ	ンティア活動の)基礎、基盤の棒	構築を図る。
						学生の意識調	
	③「学生	ボランティア委	員会活動」の	耳発足 。			
	4)「地域	連携センター	との連携機能	・・・・・・ 強化、充実を図			
	⑤[改訂	ボランティアハ	ンドブック』の利	極的な活用。	,		
			31年度~35				
			ア活動の推進:				
	地域:	貢献のため学	生が独自に「計	· 画・実施・評価	· 5•行動(PDCA)) を実施できるよ	う支援する。
			依頼•地域貢南				
	③恒常的	りな、「大災害	支援プロジェクト	、(仮称) (の学	生組織の常設	化を検討。	
第 2回			ンティア医院				
H30.7.4		ボランティア委					
11001711			ティア活動への	透い及び活動	への支援		
			ティア活動のリー				
	<u> </u>		委員会独自の			の活動。	
	<u> </u>					ハビリから提乳	 を)
			一の数から引				* /
						. 2名。(昨年比	 (一3名)
	3. その他	\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	心場足勝しつ	, 0,,,,,,,	747 15 3163	, 2 ⁻ 10° (#F-7-11	, o.d.)
		」 シッティア活動	」評価につい	Γ			
課題(問題・							
环运门 0.65			 会活動につい				
			井淵地方大地		□ 奚全活動		
	_		.开加地ガスだ 舌動(義援金募		及业/口到		
					21年度に向に	」 ナての課題とな	· ~ t-
						たが、結局本年	
	なかった		ヨ り」に りい C			/こが、心の力・	一人とはてこ
	[理由]	0					
		」 項目の「日め	⊥ ∣」・「狙い」・そ	の他の調敕を	」 が詰めらわ <i>た</i> っ	りつナ -	
			」・ 狙い」・ で 委員会を年間				
	S. (教員の <i>)</i> [理由]	ハハンノノイグ	女只女で牛川	と回しい、刑惟	ことではかりに	0	
		□ 星である兄☆	⊥ ヹが、学内の組	 織亦再に上・	」 公対広できた	かったため	
	0 - 11 1					かつににめ。 ティア委員会	≥±.同样に
						ノイグ安良で とは言えなかっ	
			か、子内3キャ)課題となった		でルルは1刀	こは百んなか、	هـار
白かった占					- ノマ汗 計し	」 自己省察)」(i	ーついて
及かりには		-	フンティア 酒!		1ノ心助C	□□□常/』□	
				-	その問題・	」 点が提起され	・エムズは
					、てい问題と	さい 作品でき	・、 丁ガ じは
心尼	ないが3	土子が川〜協	議が始まった	- 0			
所属委員	10년 구트	2 本の 空間			计 净田 5	<u></u>	
⊎疋丛 新不		E 新田 阿里	予 富沢 川端 	宗	江 浅川 水	膝	

社会福祉学部(1)年

主任名 (櫻井 秀雄)

1. クラス運営の状況

(1) 学年としての取り組み内容・状況(具体的に記述して下さい)

教員の取り組み

・毎週月曜日1限の学年会議では、基礎演習の内容検討、ボランティア活動、環境美化活動の状況や、学生の問題行動(欠席、茶髪等の基本的生活習慣)の指導だけでなく、積極的に学生生活が送れるよう支援することや教員の一致した共通認識を持ち知行合一の精神で指導してきた。

また、主な行事については、事前の計画、当日の実践、事後の評価を綿密におこなった。

- ・清掃時間には必ず現場に出向き、清掃活動だけでなく清掃ファイルにもこまめにコメント を記入し学生理解にも努めてきた。
- ・「ボランティア活動 I」「チームケア入門 I」では、1 年教員のティームティーチングができた。

学生の取り組み

・4 月のフレッシャーズキャンプ、親睦スポーツ大会、7 月の前橋七夕まつり、9 月の障害者スポーツ大会ボランティア、11 月の昌賢祭、12 月のチームケア入門 I 合同演習を通じて、学部・学科・

専攻・コース及び学年間での親睦が図られ親睦が深まった。また、障害者理解や地域貢献 の気持ちも深まった。

- ・学生は進路や自己実現の意識向上が図られ、全員が意欲的に継続ボランティア活動に励んだ。1月下旬の発表会では、お互いのボラ体験について学び合う事ができた。また、依頼・行事ボランティアにも積極的に参加することができた。
- (2) 各種講座等の取り組み状況(具体的に記述して下さい)
- ・基礎学力講座に 名、介護職員初任者研修に36名の学生が参加し、自己実現に向けて徐々に力をいる。また、月刊副読本を利用し、授業、実習、就職理解に役立てている。
- ・定期試験等の前には、友達同士で学び合う姿が多く見られた。

2. 学生の状況

- (1) 生活上の問題等(具体的に記述して下さい)
- ・入学当初の交通安全講話の効果で大きな交通事故はなかった。ただ、免許取り立ての学生 が多いので常に注意をおこなった。
- ・前期定期試験で追再試験者は少なかったが、常に普段の予習・復習の大切さを指導した。
- ・乾燥している時期が多く、インフルエンザ罹患の学生が多かった。うがい、手洗い、睡眠 確保について指導した。
- ・引き継ぎ書類を整理し、書類と口頭で2年次担任に引き継ぎたい。
- (2) 出欠の状況(休学・退学等の希望も含む) (具体的に記述して下さい)
- ・長欠の学生はおらず、心身ともに健康な学生が多い。

3. 進路指導の取り組み状況(具体的に記述して下さい)

- ・二者面談(5~6月)基礎演習 I での 4 年生講話(12月)三者面談(2~3月)は、学生に とって進路選択を考える上で参考になっている。三者面談への参加率は非常に高い。また、 コース変更希望の際には、早めに担任と相談するよう指導をおこなっている。
- ・就職常識試験を2回(6、12月)実施し、その結果を踏まえ学習方法の確認・検討をおこなった。
- ・自己の夢実現に向けて、授業を休まないこと、礼儀・挨拶、時間厳守、予習復習の学習習慣、心身の健康管理、ボランティアに積極的に取り組む事を、基礎演習 I、ボランティア活動 I にて毎回指導している。

4. 基礎演習・専門演習の取り組み状況と反省事項の整理(具体的に記述して下さい)

- ・年度当初、講義の受け方、履修、定期試験、サークル、アルバイト等に不安を持つ学生がいたが、4~5月の基礎演習 Iや二者面談等で丁寧な指導をおこない不安は解消されてきた。 同様に友人がなかなか作れずひとりぼっちになりそうな学生もいたが、友人もでき現在快適に過ごしている。
- ・フレッシャーズキャンプ (4/9~10) 防犯講座 (4/16) 消費者被害防止教育 (12/10) デートDV (1/28) については、短大 1 年と連携し、円滑に実施することができ、学生にも好評であった。
- ・講義形式、訓話・講話の竿にはワークシートに記入し演習ファイルに整理させることで省察ができた。また、学生の評価、教員の評価を踏まえ、PDCAサイクルを活用し、次年度 1年次の授業概要を作成した。

社会福祉学部 (2)年

主任名 (梅山文秀)

- 1. クラス運営の状況
 - (1) 学年としての取り組み内容・状況(具体的に記述して下さい)
- 4月 入学式ボランティア活動、前橋・渋川シティマラソンボランティア活動
- 4月~5月に二者面談を実施
- 10月 あそかまつりボランティア活動、昌賢祭準備
- 2年生は、年間を通して研究小論文の取組を行った。
- 2月~3月 希望者による三者面談を実施予定
- (2) 各種講座等の取り組み状況(具体的に記述して下さい)

基礎学力養成講座を年間を通して実施。

- 2. 学生の状況
- (1) 生活上の問題等(具体的に記述して下さい)

障害のある学生や精神的に不安定な学生、遅刻・欠席が目立つ学生、進路について悩む 学生など、学年会議にて常に情報の共有を行い、学生指導に生かした。精神的に不安定 な学生については、随分と安定してきた。

ストーカー被害の危険性があった学生については、警察の協力によって無事解決した。

(2) 出欠の状況(休学・退学等の希望も含む) (具体的に記述して下さい)

自己管理がうまくできず、寝坊等により遅刻・欠席が目立つ学生や進路に悩み、欠席が 目立った学生については、三者面談等によって指導を行い、改善が見られた。

- 3. 進路指導の取り組み状況(具体的に記述して下さい)
- 二者・三者面談の実施、進路・資格取得プログラムの中にキャリアガイダンスや一般常識テスト、4年生講話や卒業生講話等を組み込み、進路指導に生かした。
- 4. 基礎演習・総合演習の取り組み状況と反省事項の整理(具体的に記述して下さい)

年間計画に基づいて、建学の精神と実践教育、心身の健康、進路・資格取得、地域貢献、学士力養成の各プログラムを実施。研究小論文の作成が中心となった。今年度は、2学年教員の分野を説明し、クラス単位ではなく、教員単位で進めた。授業評価アンケートの結果を見ると、建学の精神と実践教育プログラムについて評価が低く出ていたため、内容の改善が必要と思われる。

(学部)• 短大(3)年 主任名(山岸 裕美子)

1. クラス運営の状況

(1) 学年としての取り組み内容・状況(具体的に記述して下さい)

全体として **素直でおとなしい、という特徴があるものの、やや理解力に欠ける印象を受ける学年である。そのため、「国語力」を高めるための工夫を随所で行った。また、上級学年としてより良い学風を造るためにも、言葉遣い・教職員に対する態度などに気配りをするよう説いた。

学年会議においては、毎回クラスの状況報告を行い、全学生に対する共通認識を欠かさないよう努めた。

(2) 各種講座等の取り組み状況(具体的に記述して下さい)

社会福祉士国家試験対策講座・模試(東京アカデミー)

基礎学力養成講座・模試(東京アカデミー)

2. 学生の状況

(1) 生活上の問題等(具体的に記述して下さい)

実習への不安・友人関係のもつれによる悩みから一時は退学を考えた学生が出現したが(男女各 1 名)、担任による支援によって思いとどまり、現在は 4 学年になる準備を進めている。しかし、男子学生 1 名が返却された自身の成績不振による衝撃から、休学したいとの意志を表出している。そのため、保護者も交えながら継続して対応している。

- (2) 出欠の状況(休学・退学等の希望も含む) (具体的に記述して下さい)
- ・退学・休学者なし。
- ・授業におけるグループワークが苦手なため欠席が多くなり、複数科目の定期試験受験資格を喪失した男子学生がいる。 障害学生学修支援担当の教員及び担任が善後策を検討中である(昨年度から続行)。
- 3. 進路指導の取り組み状況(具体的に記述して下さい)
- ・ 二者面談の実施
- ・「介護職員就職説明会」(於、グリーンドーム)参加
- ・「昌賢学園就職説明会」における実効性のある就職活動に向けての事前指導
- ・「就職・職務適正試験」「マイナビ適性診断」の実施
- ・「就職作文試験」添削に基づく実践学習の実施(ワークシート使用)
- ・「進路希望登録票(仮)」の記入及び同票郵送による保護者に対する働きかけ
- 4. 基礎演習・総合演習の取り組み状況と反省事項の整理(具体的に記述して下さい)

学士力を高めるべく、以下の内容を重視した。その際、詰め込みすぎないよう配慮した。

- ・学習統合:論理的な思考と的確な調べ方の学修
- ・地域貢献: 昌賢祭クラス発表における地域住民に対する配慮と工夫・ICT による福祉利用者の支援 やボランティアの可能性についての講義受講(外部講師)・群馬県の地域福祉の現状と課題について の講義受講(外部講師)
- ・ 進路: 進路決定が円滑に進むための、各種指導及び適正診断の実施
- ・建学の精神:目標を持ち、計画を立てて実行する習慣をつけることについて説諭

反省事項:ともすると説明に力をこめすぎがちとなってしまうが、学生の理解の状況を見ながら (ゆっくりと)進めることが大切である。

社会福祉学部(4)年

主任名(時田 詠子)

1. クラス運営の状況

(1) 学年としての取り組み内容・状況(具体的に記述して下さい)

教員の取組

- ・隔週水曜日1限の学年会議では、学生の問題行動の指導だけでなく、よい面を積極的に賞賛すること、 組織として一枚岩で対応することを認識し、知行合一の精神で指導してきた。また、主な行事につい ては、事前の計画・当日の実践・事後の評価を綿密に行っている。さらに、就職の状況を学年全体で 共有している。就職課の長津先生が、4年担任としているので、学生の内定情報が把握しやすかった。
- ・掃除時間には現場に出向き、掃除指導だけでなく学生理解にも努めてきた。また、掃除ファイルに小 まめにコメントを入れ、学生との心の交流を図ってきた。

学生の取組

- ・親睦スポーツ大会、課題研究等を通して、学部・学科・学年・専攻・クラスの絆が強まった。
- ・学生は自己の適性を鑑み、就職活動や国試の学習に積極的に取り組んだ。
- ・内定後も就職先で必要な知識・技能、準備等コツコツやる姿が見られた。
- (2) 各種講座等の取り組み状況(具体的に記述して下さい)
- ・国試合格を目指し、東京アカデミー国試対策講座や朝学習・放課後学習に熱心に参加していた。
- ・定期試験前には、友達同士で学ぶ姿が見られた。

2. 学生の状況

- (1) 生活上の問題等(具体的に記述して下さい)
- ・前期、軽微な交通事故が2件あったが、事後対応は適切にできた。総合演習Ⅱで、その都度、交通安全について指導している。
- ・目立った欠席は、1年間なかった。
- ・染髪、ピアス等がごく一部の学生に見られた。学年・担任が指導してきた。大学全体、同一歩調で指導する必要がある。
- (2) 出欠の状況(休学・退学等の希望も含む) (具体的に記述して下さい)
- ・1月、インフルエンザに3名が罹患した。後期試験開始前までには、全員、大学に復帰できた。

3. 進路指導の取り組み状況(具体的に記述して下さい)

- ・三者面談(5~7月)の参加率は高く、学生のみならず保護者の就職に対する思いも把握することができた。
- ・総合演習Ⅱでの「自己表現テスト」「エントリー試験」は、志願書作成や二次小論文の参考となった。
- ・富澤国試受験対策委員長に、4年学年会議に来ていただき、各学生の模試結果や問題点について話してもらい、担任との共通理解を図ってきた。

4. 基礎演習・専門演習の取り組み状況と反省事項の整理(具体的に記述して下さい)

- ・「社福だより(隔月発行)」を用い、メインの学習の前に、行事予定、学生指導(良い点・改善点、学 習習慣、健康管理)等を行っている。また、学位記授与式に備え、学園歌練習も行った。
- ・課題研究が4年生のメインであった。次の2つが問題点である。①総合演習IIの時間に、課題研究を 行う学生と卒業論文を執筆する学生が混在する。②子ども専攻は6月(4回程度)、実習のため、総 合演習IIの授業ができず、社会福祉専攻と差が出てしまう。
- ・課題研究は3年次後期からスタートするが、3年と4年の引継ぎがやや不徹底だった。学年主任間の 話し合いが必要である。

学部・短大)(1)年 主任名(柳澤 充)

1. クラス運営の状況

- (1) 学年としての取り組み内容・状況(具体的に記述して下さい)
- ・建学の精神に基づき、豊かな人間性を育み、社会に貢献するための基礎的教養を養うとともに、礼儀、挨拶、身だしなみ、環境美化、ボランティア活動等を自主的に取り組むことができるようになることを目的に取り組んだ。・具体的には、基礎演習 I において、①基礎的教養を養う、②進路について熟考する、③社会人を意識して行動できる、を主に取り組んだ。①では、「自身が目指す職業について法的根拠を示した上で述べよ」をテーマにレポートを作成、発表させた。文献の見つけ方、引用文献の示し方などの習得を目指した。②では、昌賢学園等の就職説明会に参加し、振り返りを通して自身の進路について深く考えるきっかけを作った。また、チームケア教育において自身が目指す仕事について他学部学生にプレゼンしたことにより、進路について熟考する機会が持てた。③では、社会人の準備として「セルフプラン」を作成し、自己の課題を自覚し、その克服に向けて考える機会を設けた。また、昌賢祭準備や参加、委員会活動などを通して、協力・協働の大切さ、計画・実施・評価のプロセスを学ぶ機会を設けた。
 - (2) 各種講座等の取り組み状況(具体的に記述して下さい)
- ・介護福祉士国試模試 (3 回)、介護福祉士月例講座 6 回、医療事務月例講座 10 回、医事向け一般教養試験対策講座 (月 5 限)、外部講師 (防犯講話、DV講話、消費者講話)、トレーニングテスト (1 回)、介護福祉士国家試験対策 (月 5 限)、社会福祉特講 I (水 5 限)

2. 学生の状況

- (1) 生活上の問題等(具体的に記述して下さい)
- ・前期に担任との二者面談を行った。適宜、学生とその親御さんと面談を行い、課題を把握し指導に活かした。学年終了時に、進路確認、コース変更確認等のために担任との面談を行った。
 - (2) 出欠の状況(休学・退学等の希望も含む) (具体的に記述して下さい)
- ・学籍番号 231020 (実践コース): 授業に出ることが困難ながらも登校はしており、日中は図書館で過ごし、環境美化にも参加していた。何度か母親と本人と面談を重ね、3-4 年で卒業することを目指していくこととする。今年度の単位履修はなし。
- ・学籍番号 231024 (総合コース): 前期は欠席遅刻が目立ったが全科目の前期試験を受けることができた。夏期介護実習を終えたが、後期に入り事後指導における書類を施設に提出していないことから何度か指導した。10 月後半になり「学校を続けていく自信がない」との話があり、親御さんとも何度か面談を行い話し合いを持った。2019 年 1 月下旬、本人と父親が来校し、退学したい旨の話があった。退学届けが提出され次第、教授会に報告する。
- 3. 進路指導の取り組み状況(具体的に記述して下さい)
- ・昌賢学園の就職説明会に参加し、各施設・病院からの説明により、求められる人材について理解するきっかけとなった。実際に現場で活躍している専門職から直接話を聴くことにより、働く意義を確認する機会を得た。基礎演習や実習、国家試験・検定試験対策、各科目と関連させながら、1年を通して、進路について考えさせることができた。また、チームケア教育において自身が目指す仕事について他学部学生にプレゼンしたことにより、進路について熟考する機会が持てた。
- 4. 基礎演習・専門演習の取り組み状況と反省事項の整理(具体的に記述して下さい)
- ・短大は入学年度と卒業年度の 2 年間で修了する。学校生活に慣れた頃には、2 年に進級し具体的な 進路選択を行うこととなる。よって、基礎演習などを通して、基礎的な教養を養い、社会人を意識し て行動できるように土台を築いてきた。2 年次に妥当な進路決定が出来ることを期待している。
- ・外部講師による講義は社会問題を身近に考えるきっかけとなった。
- ・昨年レポート指導に時間を十分にさくことができなかったという反省を踏まえ、添削指導を授業外で指導を行ったが、さらに指導方法を検討する必要がある。

学部 (短大) (2)年 主任名(土屋 昭雄)

1. クラス運営の状況

- (1) 学年としての取り組み内容・状況(具体的に記述して下さい)
- ・就職関係エントリー試験〔5/17〕
- 二者面談
- ・三者面談〔希望進路確認、成績等状況報告、夏季休暇以降の取り組み事項等について〕
- 実習事例研究及び要旨作成
- 文集作成
- 介護福祉士会入会説明及び入会手続き
- ・介護福祉士国家試験〔1/27〕
- ·医療秘書認定試験〔2/3〕
- (2) 各種講座等の取り組み状況(具体的に記述して下さい)
- · 介護福祉士国家試験対策月例講座
- 実力試験〔模試〕
- 国試対策補習
- · 個別指導〔補習〕
- 2. 学生の状況
- (1) 生活上の問題等(具体的に記述して下さい)

今年度においては、とりわけ大きな問題は生じていない。学年会議にて学生の情報を共有し、何かあれば、担任及び学年主任とで学生指導に当たってきている。

(2) 出欠の状況(休学・退学等の希望も含む) (具体的に記述して下さい)

問題になるほどの長欠はない。学年会議において学生状況を共通認識し対応してきた。

3. 進路指導の取り組み状況(具体的に記述して下さい)

実習や昌賢学園就職説明会等をきっかけに、学生の就職に対する意識が高まり、専門職者となることへの自覚が芽生えたものと考えられる。

そして、医療事務・秘書コースにおいては、厳しい状況であるにもかかわらず、就職課及び担任の きめ細かな対応・支援、情報提供により良い結果が得られた。

4. 基礎演習・専門演習の取り組み状況と反省事項の整理(具体的に記述して下さい)

総合演習を通じ、多少なりとも社会人になるにあたっての教養を養い、また、責任感を持ち行動できるようになったのではないかと感じている。そして、さまざまな事柄への取り組みを通して、親睦も図れ、強調性も養えたものと思われる。

看 護 学 部

【看護学部】

実践(活動)事項

- 1. 活動の役割分担を行い、責任の明確化で業務内容の円滑化を図った。実際には担当人数の減少で役割負担はあった。しかし、委員のお互いの協力で取り組んだ。
- 2. 大学生活サポートについては、新入生歓迎会、親睦スポーツ大会、サークル活動への支援を行った。 今年度は 15 団体のサークル・同好会として活動した。学生のトラブルが発生した際には、学年の報告を基に、指導の一貫性を図った。
- 3. 生活指導: 年6回実施されるオリエンテーションでは、休暇中の過ごし方や防犯、交通安全、トラブル回避、SNS 使用等についての指導内容は、本部の学生委員長より配信され、全学部共通に注意喚起を行った。
- 5. 障害学生学修支援と連携をして、障害者学生(難聴学生)、性別違和の学習環境支援を共有した。
- 6. 学生の学生委員会を開催した。学生委員は、どのような活動をするか、学生委員の必要性と取り組み内容に関するアンケートを実施し、結果を出した。学生委員は必要であるという結果であった。自由記述の有意義な大学生活、学習を過ごせる環境調整や要望については、学生委員が出来る内容を今後検討することが課題となった。

委員会実施報告

委員会は現1月まで9回開催した。6回目より委員長は体調不良による不在のため、副委員長が中心となり委員会を運営した。学年主任委員長はメンバーではないが、学生の情報、状況の共有と一貫した指導のため、昨年からの引き続きで必要時参加するということで1メンバーであった。

第1回4月11日 第2回5月18日 第3回6月15日 第4回7月20日 第5回9月19日 第6回10月19日 第7回11月22日 第8回12月13日 第9回1月21日

課題

- ・学生のトラブル時は、学年、担任で対応を行い、学生委員会に取り上げて検討するまでに至らず、学年報告による注意喚起を共有した。今後も、学生委員会の役割を再確認し、重複のない連携をとり、報告・連絡・相談をスムーズに行うことは継続課題である。
- ・今年度は、新たな学生支援委員が発足した。学生委員会での役割の周知は今後も必要である。
- ・学部共通活動についての連携は不可欠であるが、大学の学生委員会議は1回のみであった。親睦スポーツ大会、昌賢祭を主軸となる学生委員の組織の位置づけと役割を確認し、他の委員との連携による委員会の円滑運営を望む。(学生の管理状況の情報の取り扱いと管理について等)
- ・大学行事は学生間、学生と教員(学生委員)の連携を密に行い協働することは継続課題である。
- ・基礎演習・総合演習に関連することが多く、担任との連携は重要となってくると同時に、責任の所在 や役割の明確化は課題となる。

31年度の展望

学生の健康維持と安全保障を基に学生が主体的かつ能動的に学習や活動ができること。また、社会的 責任をもった行動が取れること。そのために、学生委員会の充実を図り、学生と共に創る大学生活、 環境であることを望む。

所属関係教職員

◎井本由紀子、○佐藤充子、上田葉子、藤原美津子、中嶋朋子、依田真由子、鈴木淳貴、酒井美子(学年主任)、

教務カリキュラム委員会 活動報告

【看護学部】

実践(活動)事項

- (1) カリキュラムの一部改変と新カリキュラム改定にむけた準備
 - ▶ 今年度カリキュラムの変更承認申請の提出予定で準備してきたが、今後の保助看法の指定規則変更に伴い2021年度に新たに変更承認申請書を出す必要性が生じた。そのため、今年度の変更承認申請書は見送ることになった。しかし、養護教諭の教職再課程認定の申請に伴い一部新設科目を配置することになった為、次年度の変更届け出は実施していく。
 - ▶ 新カリキュラム改定にむけ、文科省の「モデル・コア・カリキュラム」や日本看護系大学協議会の「看護学士課程教育におけるコアコンピテシーと卒業時到達目標」を紹介し、授業内容の検討資料として提供し、準備を進めている。
- (2) 看護学部ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーを顕在化させたカリキュラムの編成と実施
 - ▶ 基礎演習及び総合演習の時間を通して、環境美化活動やボランティア活動において上級生が下級生を指導する時間を設けた。また、チームケア入門I、IIにおいて他学部学生と合同学習を行うことができ、多職種連携の意義が学べ、全学共通カリキュラムポリシーを顕在化させたカリキュラム運用につながった。
 - ▶ グローバルな視点として海外研修が実施され、1,2年生の希望者を中心に参加し、語学面や 異文化理解に一定の効果が得られた。
- (3) 三学部委員長会議をもち、カリキュラムの整合性、学則の細則の検討や見直しを行い、学部間のカリキュラム運営を共有している。
- (4)「Webシステム」導入のため、学生、教員に説明会を実施し周知した。

委員会実施報告

第	1回	4月18日	第	5回	9月26日	第 9回	1月23日
第	2回	5月 9日	第	6 回	10月10日	第10回	2月20日 (予定)
第	3回	6月13日	第	7 回	11月14日	第11回	3月 6日 (予定)
第	4回	7月11日	第	8回	12月12日		

課題(問題・改善)反省事項

- (1) 今年度、カリキュラムの変更申請を見送ったので、「モデル・コア・カリキュラム」や「看護学士課程教育におけるコアコンピテシーと卒業時到達目標」の共有が確認できなかった。
- (2) 看護学部における3つのポリシーの整合性を、カリキュラム改正にむけて再度検討、調整していく必要がある。
- (3) 過密な時間割であることから、学生が主体的に学習に取り組む物理的な要件が不十分である。 したがって、科目間の授業内容の重複の有無を見直し、カリキュラム改正に向けて継続して検 討していく。

31 年度の展望

- (1) 看護学部の3ポリシーを念頭におき、具体的な運用を進め、教育の実践・評価を行い、教育の 質の向上を目指し、3ポリシーを再度検討、調整していく。
- (2) カリキュラム改正の意図を受けて、「モデル・コア・カリキュラム」等を参考に、現行カリキュラムを見直し、新カリキュラム作成に向けて準備を行う。
- (3) 三学部間の委員長会議を定期的に開催し、3学部共通科目を検討し、看護学部内においても共有していく。

所属関係教員

◎島田壽美子 ○山下博子 樋口キエ子 西山智春 酒井美子 鶴田晴美 川田智美 高橋奈津子 中川陽子 宮前奈里子

進路指導委員会 活動報告

【看護学部】

実践(活動)事項

- ・平成30年度の就職・進学状況は卒業予定者95名中、就職内定者87名(看護師・保健師)、 進学内定者4名(助産専攻)、未内定者3名であった。(1月現在)
- ・1・2年生に対しては、主に将来の就職や進学についての意識付けをするため、オリエンテーションや基礎演習の時間内で指導を行った。
- ・3年生に対しては、就職活動に向けての情報収集やインターンシップや就職説明会への参加 について指導し、自分自身の進路の明確化を図り、次年度に向けて良いスタートが切れる ように指導を行った。
- ・4年生に対しては、就職・進学試験の実践に向けて総合演習Ⅱの授業内において、就職支援 センターや掲示板の活用方法、履歴書や面接マナーのポイントなどを具体的に指導した。 その後、学年担任、就職課と連携を図り、個々の学生に対して細やかな個別指導を行った。 また、就職先についての情報提供、進路希望調査の実施や採用試験報告書の提出を促し、 次年度の学生の参考資料として活用するため、整理を行った。
- ・平成30年度大学主催の就職ガイダンスを3月に控え、準備を進めている。

委員会実施報告

会議実施日: ①4/10 ②5/15 ③6/11 ④11/12 ⑤1/25 ⑥2月中(予定)

内容・4年生の就職・進学状況について報告し情報共有を行った。

- ・就職・進学における学校推薦・公募制推薦の選考会議を企画、実施した。
- ・各学年における進路についての指導内容について検討、修正を行った。
- ・「進路の手引き」の内容について検討を行った。
- ・4 月実施の外部看護職就職ガイダンス、3 月実施の学内就職説明会についての企画・運営について検討を行った。

課題(問題・改善)反省事項

- ・1、2年生に対して自分自身の将来像や進路への意識を高めていく支援を強化していく必要がある。
- ・キャリアデザインノートや「進路の手引き」についての意義や活用方法が教職員間で周知がされていなかった。今後、活用方法について検討する必要がある。
- ・看護学部で活用されていた「進路の手引き」は最新版でなく、学生指導時に困惑する場面も見られた。 今後は、「進路の手引き」の最新版を全教職員と学生に配布できるよう手配し、進路指導の充実を図 ることが求められる。
- ・資格に関わる法律等が改訂されることもあるため、「進路の手引き」については毎年全学部で見直し を図る必要がある。

31年度の展望

- ・就職課と連携を図り学生への就職・進学支援指導を継続する。
- ・就職率100%を目指し4年生担任と情報の共有、指導の統一を図る。
- ・キャリアデザインノートや「進路の手引き」を有効活用し、学年における段階別指導を徹底する。
- ・3年生から4年生に就職活動の実際や進学や採用試験のための準備などの体験談を直接聞きたいという要望が多くあり、昨年度3年生担任で企画し行った「就活カフェ」が好評であった。そのため、次年度からは進路指導委員会・就職課の企画として年間計画に入れ、実施していけるよう検討していきたいと考える。

所属関係教員

川田智美(委員長)、菅沼澄江(副委員長)、島田寿美子、源内和子、間渕哲弥(就職課)

実習指導調整委員会 活動報告

【看護学部】

実践(活動)事項

- (1) 実習計画表の作成及び全領域との連携・調整を図り、効果的な実習が実施できる。
- ・各領域の実習状況、学生対応、施設との調整等情報共有した。各領域は大きなトラブルもなかったが、微調整として施設及び学内での実習時間の調整が必要な事案が発生したため、今後より効果的で学生にとっても教育を担保できるような実習時間の調整が望まれる。
- ・H31 年度の実習配置表については、今年度の実習施設に加え、在宅看護領域と母性看護領域において前橋日赤病院でお世話になることが決定した。前橋日赤病院は新病院移転に伴い学生の受け入れも協力的であった。学生にとって、よりよい実習へ繋げるステップとなる事が期待される。
- (2) 公立藤岡総合病院との連携・強化を図る。
- ・本学が地域に根差した唯一の看護基礎教育を学べる大学であるということにおいて、公立 藤岡総合病院との連携は欠かせない。同施設は 5 校の大学、専門学校の実習を受け入れて いるため、毎年実習配置の協議がなされている。今年度も本学が実習調整会議の当番校に なっていたため会議を開催し、施設及び各校との事前調整を密に行うことで、予定通りの 実習が可能となった。今期の受け入れ学生数は述べ 900 人を越え、文字通り公立藤岡総合 病院は本校のメイン実習先であり今後ともよりよい関係性を維持していきたいと考える。 なお、新病院の移転に伴い駐車場の整備が遅く大学からは送迎バスを用意して学生に支障 のないよう配慮して頂いた。
- (3) 次年度統合実習に向けて効果的な実習要項の作成
- 28.29 年度統合実習の振り返りの結果、統合実習の時期については検討を重ねてきており、第7期生より4年次にて実習を行うことが決定したため、来期の統合実習目標は4年生対象に企画した。大きなポイントは、学生主体により能動的に実習に入れるよう事前学習を強化した。事前学習への取り組み如何で臨地実習での目標達成度に影響が出ると思われる。そのための学生支援を強化したいと考える。
- (4) 実習施設との連携を図り、教育内容の充実を図る。
- ・教育機関と実習施設側の役割を明確にし、大学と実習施設とが一体となった連携強化を図る事は 必須のことである。現場教育の上で教員と指導者側とのコミュニケーションは欠かせない。
- ・今年度も「実習施設連絡会」の開催を2月9日に予定しているが、例年同様施設側との忌憚のない意見交換会はとても重要なことであると考えている。

委員会実施報告

- 第1回4月13日 実習委員会諸規定について・実習前課題について・30年度臨地実習配置 について
- 第2回4月24日 藤総駐車場について・利根中央病院への通学について
- 第3回5月11日 各領域実習施設の調整、指導人数について・30年度臨地実習を開始して・ 保健師課程、養教過程の実習を開始して
- 第4回6月15日 各領域実習中の様子・31年度基礎・領域・統合実習の検討・31年度配置 計画について・各領域の学内日の確認・藤総駐車場の件・インシデントレ ポートの報告・他領域の応援態勢について

- 第5回7月13日 各領域実習中の様子・インシデントレポートの報告・31年度実習配置計画 【計画案】について
- 第6回8月3日 各領域実習中の報告・31年度実習配置計画【案】・前期実習の振り返り
- 第7回9月7日 前期領域実習における単位未修得学生の確認・31年度新規開拡施設(前橋 日赤)の状況・基礎実習について
- 第8回10月12日 基礎実習Iについて・後期領域実習について・31年度学年暦についての 検討・31年度統合実習に向けて
- 第9回11月9日 後期実習を終えて・31年度実習依頼先公文書作成について・31年度統合実習 について
- 第 10 回 12 月 13 日 31 年度統合実習について・今年度の実習のまとめ方について・「実習施 設連絡会」の日程内容について検討・31 年度実習要項作成について
- 第 11 回 1 月 11 日 30 年度実習施設等連絡会日程及び内容及び委員の役割分担の確認・30 年度実習まとめについて・31 年度統合実習について・31 年度各領域実習 要項の作成について・実習病院までの所要時間の調査について
- 第12回2月8日 予定
- 第13回3月予定 予定

課題(問題・改善)反省事項

- 1. 教員及び、臨床指導者に対しても指導の質の向上を目指し、更なる実習指導の充実を図る。
- 2. 教員・臨床指導者・学生とのより良い関係性を築き、さらなる効果的な実習を目指す。

31年度の展望

1.大学と臨地実習先との協働研究を検討する。

所属関係教員

委員氏名 ◎委員長 ○副委員長

◎ 源内和子 ○風間順子 丸井淑美 ○堀越摂子 片野吉子 藤原美津子 井本由希子 長嶺めぐみ 木戸美佐子 中嶋朋子 跡部裕士

国試対策委員会活動報告

【看護学部】

実践(活動)事項

- 1. 各学年の国家試験ガイダンス及び各学年の国試対策に関しての今年度の目標を作成した。
- 2. 4年生に対する国家試験対策に関して
- ・大学構内に国試対策専用の学習室の設定し、模擬試験・外部講習会のパンフレット等の紹介掲示した。
- ・学生国試対策委員の役割等オリエンテーションを行った。
- ・人体の構造と機能・疾患理解に関しては、DVDの活用を取り入れた。
- ・業者模擬試験及び基準に達成できない学生の模擬試験再試・業者講習・領域別補修講義・成績低迷者 の強化学習等実施した。
- ・全教員における担当学生個人指導を行い、学習指導報告書を国試対策委員会に提出した。
- ・業者模擬試験の結果について、全教員に速やかに連絡し、各領域別の得点等、指導に活用してもらう。
- ・保護者への模擬試験の結果を年2回発送、保護者に協力してもらう。
- ・既卒者に対しては、受験の有無、受験の手続き、学習に関してのサポートを行った。
- ・国家試験受験に関して対応する。(宿泊・交通機関・食事・引率者等)スケジュール作成した。
- ・激励会の計画、実施を行う。(学長、学部長、副学部長、教職員から激励を頂く)
- ・国家試験全体に関して振り返りを行う。アンケート用紙を学生・教職員に実施する。
- ・国家試験発表日の対応をする。(合否の確認、報告、不合格者の対応、関連施設への連絡等)
- 3. 1~3学年に対する国家試験対策に関して
- ・各学年、手作り模擬試験を学生国家試験対策委員中心に行った。
- ・3 学年は循環器・呼吸器・消化器の3日間の講習を業者から受けた。 $1 \sim 3$ 学年は業者模擬試験を行った。
- ・2月学生国試対策委員会総会を開催する。各学年国試対策委員長会議の開催を行った。

委員会実施報告

第1回	4	月	11	日	第2回	4	月	24	日	第3回 5 月 26 日
第4回	6	月	22	日	第5回	7	月	27	日	第6回 10 月 5 日
第7回	10	月	26	日	第8回	11	月	21	日	第9回 12 月 12 日
第10回	1	1月	18	日	第11回] 2	2月:	22	目	予定

課題(問題・改善)反省事項

4 学年

- ・模擬試験の回数と内容について見直し、効果的な取り組み方を試みた。
- ・学習成果の向上のため、4年生の国試対策講習を10月に2日間と翌年1月2日間に変更、実施した。
- ・4 学年担任には、数名の国試対策委員がいた方が、国試対策を進めやすかった。
- ・国試対策委員会に関しては、国試対策委員全員で申し送りを受けた方がよい。
- ・国試模試に関しては、申し込みを早めに行いたいため、早めに委員会活動できるよう進める。
- ・4 学年担任に国試対策委員がいなかったため、4 学年担任と国試対策委員の合同会議を持て意見交換

出来たのはよかった。

- ・今年度、人体の構造と機能、疾患についてDVDの購入していただき、2年生から4年生まで活用できてよかった。
- ・成績低迷者への効果的な方法を検討し、さらに学習支援をはかることが必要である。
- ・教員全員が学生の指導にあたり、学生も活気が出てきたように感じられたのでよかった。
- 1~3学年
- ・各学年、学生国試対策委員による手作り問題を効果的に工夫し、行えたのはよかった。

31 年度の展望

- ・1 学年から授業をしっかり取り組む姿勢を持たせる。2 学年から3 学年には、さらに学習の積み重ねを行い、定着を図る。
- ・4学年前期に、基礎である人体の構造と機能を復習、全教科に繋げていく。教員全員の指導体制で取り組む。領域別補修講義、個人指導、強化学習等を効果的に取り入れる。
- ・クラス診断を行い、効果的な国試対策方法を計画し、実施に関しては、学生、教員、保護者の協力体制を築く。
- ・業者模試に関しては、各業者の特徴を踏まえ、時期、全体の取り組みの仕方を効果的に検討する。
- ・模擬試験実施後、問題及び成果の分析を行い、活用方法の工夫を検討する。
- ・各学年の学生国試対策委員の活動を支援し、各学年、クラス全員で取り組む姿勢を築く。
- ・国試対策委員と教員の連絡・報告を密に行い、模擬試験の結果等、速やかに教員と学生に伝える。

所属関係教員

◎菅沼澄江○片野吉子丸井淑美井本由希子中山洋子佐藤澄子宮前奈里子跡部裕士

環境美化委員会 活動報告

【看護学部】

実践(活動)事項

- 1. 合同環境美化活動(4月)
- 2. 学生環境美化活動(毎月)
 - 1) 巡回 2) 資源ごみの分別・啓発活動 3) 定例会議
- 3. 各オリエンテーション時における一斉清掃活動
- 4. オープンキャンパスにおける環境美化活動
- 5. 昌賢祭での見回り
- 6. 入学前指導での環境美化活動
- 7. 在庫物品管理

委員会実施報告

第 1回 4月 11 日

第 2回 10月 12 日

第 3回 1月 25 日

課題(問題・改善)反省事項

[問題点]

学生環境美化委員会において、巡回活動が行えない月もあった。また日々の環境美化活動において、清掃が行きとどいていないと連絡を受ける機会があった。

[改善・対策]

学生環境美化委員会の開催が数回にとどまり、学生委員によるリーダーシップや美化意識の向上、組織的な活動などの発信力が弱まった。まずは委員の学生の意識改革を行い、学生主体の環境美化活動に発展させていきたい。

31年度の展望

- ・オリエンテーションの大掃除等で上級生と下級生が一緒に活動することで、建学の精神や本学の環境 美化活動について、学生同士で直接指導する機会を作ることができたが、次年度は学生環境美化委員会 が主体となり、様々な活動を計画実施できるように支援していきたい。
- ・個々の美化意識向上のための取り組みやグループでの美化活動について、日々の積み重ねの重要性を 認識させるためにも、担当教員による教育的なかかわりを足並み揃えて実施していきたい。

所属関係教員

部会・委員氏名 ◎委員長 ○副委員長

◎長嶺めぐみ ○小澤かおる 上田葉子 福岡明日香 松村広美 依田真由子 山下博子 中嶋朋子 木戸美佐子 富沢由子 林昌浩 丸山英美

FD·SD委員会 活動報告

【看護学部】

実践(活動)事項

- 1. 30年度FD/SD研修ニーズ調査(4月)
- 2. 1の結果を学部会議で報告、30年度計画案報告(7月)
- 3. 第1回FD研修会(10月)
- 4. 第2回·3回FD研修会(1月)
- 5.30年度FD/SD研修結果を学部会議で報告(2月)

各回の研修プログラムは・講義(複数教員)・事例検討(各領域実践事例)・報告とコメントで構成

委員会実施報告

第	1回	5月 1	日	第	4回	9月	5	日
第	2回	7月 31	日	第	5 回	1月	9	目
笙	3 回	8日 9	н					

課題(問題・改善)反省事項

今年度の研修会の目標は概ね達成された。

[問題点・改善点]

- ・後期集中的にFD研修会を実施したが、通年の中で定期的にすることが必要。
- ・学部会議後は参加者が多くなる反面、時間の拘束を伴うため同日には企画しない。

改善点

- ・目標・内容に応じた開催日時の見直しをする。
- ・今後は年度初め早期から、年間計画に組み入れられるようにする。
- ・学部会議の後に継続するのではなく、まとまった時間を設定した研修会を企画する。

31年度の展望

- ・30 年度は新人の教員および大学教員として経験が浅い方が複数採用された背景を踏まえ、プログラム 内容をカリキュラムの動向、学生の特徴、学生指導の在り方の講義と教育実践場面の事例検討を実施 した。今後も教育の基礎力を高められるような情報交換と教員間の交流を深めるような研修会を積み 重ねて行きたい。
- ・研修内容に反映できるような企画は参加者自身が主体的に参加するうえで必要であるため、FD研修 へのニーズ調査を次年度も早期に実施してゆく。
- ・看護基礎教育に求められることは年々多様かつ高度化している、また、入試の種別が多様になった事 に伴い、学生の修学意識も変わってくることも予見した教育ができる事を目標にした FD 研修の構築 も視野に入れる必要がある。

所属関係教員

部会・委員氏名 ◎委員長 ○副委員長

◎樋口キエ子 ○高橋奈津子

自己点検・評価・コンプライアンス委員会 活動報告

【看護学部】

実践(活動)事項

<委員会の目的>本学の建学の精神及び学部の教育目的、自己点検・評価規程に基づき、自己点検評価 (PDCA) を実施し、教育内容・方法等の改善と各委員会等の組織運営活動の充実を図ることにより、大学教育の質保証としての総合的な教育力・組織力・コンプライアンスの向上を目指す。

<平成30年度の活動>

- 1. 各期オリエンテーションで授業評価の意義、実施方法等について学生・教職員への周知を行った。
- 2. 授業力・教育力向上のための自己点検活動として、学生による授業評価アンケートの実施・評価について教員(専任・非常勤)にフィードバックし(前後期)、授業改善への活用を推進した。
- 3. 自己点検・評価・コンプライアンス3学部委員長会議を開催し、全学に向けた自己点検活動を推進した。

3 学部委員長会議

4. 日本高等教育機構大学評価員としての活動(第3サイクル)に取り組んだ。

委員会実施報告

第 1回 4 月	18 日
----------	------

第 2回 11 月 12日 第 1回 4 月 12日

第 3回 1 月 9 日 第 2回 6 月 11 日

第 4回 2 月 6 日 第 3回 10 月 17 日

課題(問題・改善)反省事項

- 1. 認証評価における指摘事項の対応について、今年度の自己点検評価を基準毎に全学的に点検し、記録に残すこととした。
- 2. 授業評価アンケートの内容及び実施方法(集計含む)、結果公表について、中立性・公平性のある 評価を行うために、外部委託案を提案した。

31年度の展望

- 1. 自己点検・評価・コンプライアンス活動としての PDCA サイクルの確立と組織・体制づくりを推進する。
- 2. 自己点検評価(授業評価アンケート)実施及び結果公表の方法について検討し、具現化を図り実施する。
- 3. 全学の自己点検活動の評価・改善・向上に向けた取り組みを推進する。

所属関係教員

◎西山智春 ○佐藤充子

木戸美佐子 福岡明日香 松村広美 佐藤澄子 丸山英美

ボランティア委員会 活動報告

【看護学部】

実践(活動)事項

- 1. 平成 29 年度に引き続き、上級生から下級生へのボランティア活動の意義について伝達することを 目的とした看護学部合同ボランティア報告会を開催した。
- 2. 看護学部ならではの医療福祉に関するボランティア活動の推進として、保健師課程の学生・教員を中心としたボランティア活動など、また養護教諭育成に関する教育ボランティア活動を推進した。
- 3. 学生ボランティア委員会が主体となり実施したペットボトルキャップの回収・寄付活動を支援した。
- 4.7 月西日本豪雨災害(広島国際大学)募金活動、9 月北海道胆振東部地震災害について募金活動を支援した。
- 5. 行事ボランティアとして、6/3 障害者スポーツ大会(藤岡市役所後援)1 年生86名参加、10/13・14藤岡市民フェスティバル(藤岡市)34名参加、10/13リレーフォライフ(群馬県健康つくり財団)2年生86名参加、11/4藤岡フェスタ(藤岡商工会議所他)1年生82名参加、

7/22 藤岡まつり 1・2 年生 180 名参加、10/6 前橋まつり 1 年生 87 名参加。

委員会実施報告

第 1回 6月 13日 第 4回 12月20日

第 2回 7月 15日 第 5回 1月 9日

第 3回 11月14日 第 6回 2月 6日

課題(問題・改善)反省事項

- 1. 学生が積極的にボランティア活動を実施できるように依頼ボランティアの掲示や地域連携センターからの情報伝達は速やかに行えた。学生は期待以上のボランティア数を実施しているため1~4年生の各目標は達成できたと考える。
- 2. 学生のボランティア活動についての評価は依頼者より高い評価が得られ感謝状を頂いた。一方、活動における過重な責任や負担を負っている場面もあり課題改善も必要である。
- 3. 藤岡商工会議所主催の案件(行事ボランティア)が多くあったため、1・2年生の参加が非常に多かった。各学年均等に参加できる方法を検討したい。

31年度の展望

- 1. 各ボランティア活動ついて、学生・教職員共に振り返り、学生が主体的に安全に実施できるように支援する。
- 2. 地域連携センターを中心として、地域や自治体、団体などからのボランティア依頼調整を行い、大学との連携を図る必要がある。
- 3. 学生ボランティア委員会では、学生が中心となり主体的・積極的に活動できるシステムの構築を図る。

所属関係教員

◎ 佐藤充子 ○丸井淑美 中川陽子 木戸美佐子 中嶋朋子 石川朋世

保健指導委員会 活動報告

【看護学部】

実践(活動)事項

- 1. 小児感染症、B 型肝炎、結核、インフルエンザの予防接種の接種勧奨及び報告等、学生の学校生活と看護学実習に向けた感染症対策を実施した。
 - 1) 健康診断後の学生の抗体価検査結果の把握
 - 2) 抗体価陰性または基準値未満の学生に対する予防接種の指導計画立案・実施・確認
 - 3) 各実習領域及び担任との連携(資料提供と接種勧奨に向けた協力)
- 2. 入学前指導における新入生への予防接種に関する指導を実施した。
- 3. 平成30年度から開設された委員会であるため、委員会活動を適切に行うための協力体制について検討した。
- 4. 世界エイズデーに基づき、エイズの蔓延防止と患者・感染者に対する差別や偏見の解消を目的に、エイズに関する予防啓発活動を実施した。

委員会実施報告

第1回	4月18日	第4回	11月20日
第2回	5月23日	第5回	1月29日
第3回	6月18日	第6回	2月末予定

課題(問題・改善)反省事項

- 1. 看護学部保健指導委員会の主な活動が、基礎看護学実習に向けた小児感染症、B型肝炎、 結核等の予防接種を受けていない学生の把握と接種勧奨であるため、基礎看護学領域の 実習打合せ担当者との連携が必要である。本年度は、その連携がうまく図れず、学生の 混乱を招いた。そのため、次年度以降は、本委員会の委員に基礎看護学領域の教員もし くは1年生の担任が加わることが望ましい。
- 2. 教職員のメンタルヘルスに関する研修を計画・実施することができなかったため、来年度の企画・実施につなげていきたい。

31年度の展望

- 1. 委員会組織としての体制を充実させ、学生の保健指導に活かす。
- 2. 教職員のメンタルヘルスに関する研修会を実施する。
- 3. 本年度に引き続き、学生及び教職員の感染症予防対策の計画的な実施・評価を実施する。
- 4. インフルエンザの予防接種を教職員、学生すべてが本学で接種を受けることができるよう働きかけていく。

所属関係教員

◎ 中川陽子 ○ 佐藤澄子 宮前奈里子

教育支援委員会 活動報告

【看護学部】

実践(活動)事項

- ・本委員会の活動内容の検討を行った。
- ・主に教員採用試験に関する情報の提供や相談等を実施した。
- ・行政職・教育職を目指す学生に対し、一般教養・教職教養の試験対策として基礎学力 養成講座の募集・運営等について教育支援センターと連携し支援を行った。
- ・国家試験及び教員採用試験対策として、書籍・資料の整備を行った。

委員会実施報告

委員長1名のため委員会は開催していません。

課題(問題・改善)反省事項

- ・委員会構成委員が委員長 1 名であったため、組織として活動することに大変困難を感じた。
- ・改善策として、学内組織である教育支援センターの会議や打ち合わせに出席するなど、 本部委員会との協働・連携を強化する必要がある。

31年度の展望

- ・各種委員会、教育支援センターと連携しながら基礎学力の充実・改善を図る。
- ・看護師及び保健師資格取得及び養護教諭免許取得のために支援の強化を図る。
- ・学部内の教育支援体制の充実と環境整備を行うとともに、本学全体の教育支援委員会 の運営組織体制を再検討する。

所属関係教員

なし

看護学部(1)年

主任名(塚越 八重子)

- 1. クラス運営の状況
 - (1) 学年としての取り組み内容・状況(具体的に記述して下さい)
- 1. 学生の指導支援

学年別オリエンテーション(6回)では、生活面、学習面、健康面、精神面の指導を担任全員で行

った。各担任は学生の個別性に配慮し状況に応じて、二者面談・三者面談を行い、保護者とも協力

して支援した。

2. 教員の役割分担

情報共有につとめ、担任間で協力し、クラス運営を行った。

- 3. 基礎演習 I
 - ① 建学の精神と実践教育、②学習統合、③進路、資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の5つ

のプログラムに基づき、環境美化活動、ボランティア活動、研究、文献検索等の講義・ 指導を行った。基礎演習 I の目的目標は達成できた。

(2) 各種講座等の取り組み状況(具体的に記述して下さい)

フレッシャーズキャンプ、親睦スポーツ大会を通してクラスの仲間作り、他学部との交流を行った。身障者スポーツ大会、藤岡祭り、前橋祭り、藤岡フェスタ等の活動を通じてボランティア活動や地域貢献について学ぶ機会となった。昌賢祭の研究発表では、テーマは学生が興味関心のあるところで自由に決め、クラスの仲間で協力し役割分担し取り組むことができた。そして、第 I 回入学前指導(1 月 12 日)で研究のまとめを新入生たちに発表することで研究の振り返りができ、更に達成感を味わい学びを深めることができた。

- 2. 学生の状況
- (1) 生活上の問題等(具体的に記述して下さい)
- ・学習面では、講義、課題提出、定期試験等について指導し、生活面では、個々の学生の 持病を把握し、健康管理に注意し大学生活に適応できるように支援した。事故、災害、感 染予防に留意することを指導した。
 - (2) 出欠の状況(休学・退学等の希望も含む) (具体的に記述して下さい)
 - 1. 学籍番号 235034 学生は入学直後に進路変更のため退学希望が出され、退学した。
 - 2. 学籍番号 235012 学生はクラスの人間関係に悩み、後期より休学となったが、2019 年 4 月より看護師資格取得を目指すため、1 年生に復学する予定。
 - 3. 学籍番号 235079 学生は 2 回の入院に伴い 1 年生の単位取得が必修 8 科目、選択 1 科目が既に欠席数が 1/3 以上となり、定期試験受験資格を喪失した。三者面談で相談した結果、本人、保護者より 1 学年の単位取得のため 4 月より 1 年生の講義を受けたいと要望があった。
 - 4. 学籍番号 235057 学生は、看護師になりたい気持ちが薄れ、後期からは欠席することが多くなった。既に定期試験の受験資格が喪失している科目が複数ある。以前より退学を考えていたと相談があり、現在検討中。
 - 3. 進路指導の取り組み状況(具体的に記述して下さい)

学生の中には看護師だけでなく、保健師や養護教諭についても将来取得したい資格として 考えている者もいた。担任は個別的に指導を行い、学生の夢の実現への指導支援(履修科 目等の指導)を行った。

4. 基礎演習・総合演習の取り組み状況と反省事項の整理(具体的に記述して下さい)

- 1. 休学、退学学生が相次ぎ、クラス運営は困難な面があったが、担任全員で相談検討し、乗り越えてきた。休学学生には学習相談室の植原先生・大島先生、小澤先生、鈴木事務員、学部長、事務長と相談しながら学生を支援することができた。保護者の協力も得ながら、学生の状況に応じて指導支援が行えた。組織として学生を支援する体制を整備する事が必要である。
- 2. 難聴学生への支援は1年生担任だけでなく、前橋キャンパス、看護学部の障害学生支援の担当教員と連携をとりながら、指導・支援する事ができた。今後も報告・連絡・相談を密に行い継続していく必要がある。
- 3. 基礎演習 I では、前期途中で授業内容の再検討を行う必要があった。学士力を身に付け、継続教育を行うためには 1 年間を見据えてシラバスを具体的に作成する事が課題である。
- 4. 1年生は大学生活に直ぐに適応できず、様々な悩みを抱えている事がある。今年度の1年生担任は、基礎領域の教員2名、領域実習を担当している教員3名で行ったが、実習担当教員は大学を不在にしている事が多く、対応に困難が生じる場合があった。タイムリーに1年生を支援していくためには常時大学にいられる教員が望ましい。

看護学部(2)年

主任名(鶴田晴美)

- 1. クラス運営の状況
 - (1) 学年としての取り組み内容・状況(具体的に記述して下さい)
- ・2年次前・後期の目標設定を行い、目標達成に向かって努力するよう動機づけし、年度末に達成度を評価してもらった。
- ・スポーツ大会、昌賢祭などクラス全体で取り組む行事に関しては、一体感が備わるよう、 委員会を中心として協力体制を固めた。担任はクラスの状況をとらえ、スケジュールに 遅れがないよう支援した。委員会のリーダーシップと他学生のメンバーシップにより、 当日は行事を楽しんでいた。
- ・2学年は、2回の模擬試験を実施し、誤った問題は見直しを行い、補講により学習不足の学生への対応を行った。
- ・基礎学力の観察と定着のため、学研常識問題と自己表現テストを計画した。自己の強み や弱点を確認すると共に、学生生活を振り返り自己のアピールポイントを分析する機会 とした。
- (2) 各種講座等の取り組み状況(具体的に記述して下さい)
 - ・基礎学力養成講座受講生は2名で、養護教諭資格取得を目指している。
 - 2. 学生の状況
 - (1) 生活上の問題等(具体的に記述して下さい)
 - ・ 夜型生活の学生は、授業に遅刻することを繰り返す者もあり、生活リズムを整え、遅刻しないで授業を受けることができるよう個別に指導した。
 - ・授業をとおして学んだことを客観的に確認する一つの資料として、試験範囲を知らせた後、国家試験模擬試験に取り組んだ。結果、D・E 判定の学生も多く、自宅での学習時間不足が露呈した。
 - (2) 出欠の状況(休学・退学等の希望も含む) (具体的に記述して下さい)
 - •休学者0名、退学者0名
 - 3. 進路指導の取り組み状況(具体的に記述して下さい)
 - (1) 保健師課程希望者に対しては、4月当初より目標を定めて学習するよう説明した。また、後期

面接をとおして、保健師課程希望の意思について確認した。

- ・今年度の保健師課程選抜全体計画は、平成 30 年 12 月 3 日 \sim 21 日願書受付、平成 31 年 2 月 18 日選考試験。 3 月 4 日面接試験、結果発表は 3 月 12 日であった。
- (2) 3月12日には、3年・2年生を対象とした就職説明会が開催され、2年後を見据えて病院概

要や教育体制、キャリアアップに向けた具体的な取り組みなど話が聞けるよう、目的を持って参加するようにした。

- 4. 基礎演習・総合演習の取り組み状況と反省事項の整理(具体的に記述して下さい)
- ・昌賢祭の出し物は、健康教育に関するテーマであった。前段階として「研究とは」の 講義を実施し、リサーチクエスチョンをグループで検討し、文献検索、まとめに取り かかった。目的意識を持ってグループワークに取り組んだ結果、来場者の方の興味・ 関心を引くテーマともなっていた。
- ・ボランティア活動のまとめ(1/21)に関するグループワークを実施し、1年間の体験に基づいた学びと課題となったことを検討し、自己成長につなげる振り返りの機会とした。
- ・昌賢祭でまとめた健康教育の内容を、第2回入学前指導で高校生に向け発表する機会 を設けた。学生の発表の場を広げ、発表者体験をする貴重な機会とした。

学年からの状況報告

看護学部(3)年

主任名(堀越 摂子)

1. クラス運営の状況

- (1) 学年としての取り組み内容・状況(具体的に記述して下さい)
- ・3年生は各論実習が主な学習であることから、2年次までの学びを最大限に活かし、さらに自身の体調管理を行うことで欠席することなく実習に臨むように指導を行った。
- 総合演習Iでは、各論実習を1年後の就職活動に繋げていけるように指導した。
- ・総合演習 I の評価については、大学行事(昌賢祭、スポーツ大会、その他大学行事)等 の貢献状況と、振り返りのレポート、ボランティア活動記録簿等で評価した。

(2) 各種講座等の取り組み状況(具体的に記述して下さい)

- ・合同環境美化活動:4月6日(金)1限目はグループワークを実施し、2限目は1年生 へ清掃活動を指導した。その後レポート作成を行った。
- ・合同ボランティア活動報告会:4月13日(金)ボランティア委員が中心となり、これまでのボランティア活動についてまとめ、発表した。
- ・親睦スポーツ大会: 5 月 2 日(金) ほぼ全員が出席し、協力して各競技に取り組むことができた。
- ・看護各論実習:5月7日(月)から11月9日(金)までの9クール実施された。
- ・昌賢祭:11月17日(土)3年生の昌賢祭委員が看護学部の思春期ピアエデュケーションの活動に協力した。
- 2. 学生の状況
- (1) 生活上の問題等(具体的に記述して下さい)
- ・実習中における SNS の取り扱いに関して指導が必要な状況があり、実習期間中に持たれた学年の集まりにおいて、SNS を含む倫理面での指導を数回行った。

(2) 出欠の状況(休学・退学等の希望も含む) (具体的に記述して下さい)

- ・各論実習において、学生1名が病気治療のため精神看護学実習を実施できず、単位不認 定となる。4年次にて再履修することとなった。
- ・各論実習の出席状況は、体調不良にて欠席する学生もみられたが数人であり、ほとんど の学生は体調管理に留意し実習に臨んでいた。

3. 進路指導の取り組み状況(具体的に記述して下さい)

- ・国家試験対策として、実習グループ単位で国家試験の状況設定問題を作成し、委員会学生が編集したものを実施し、学生同士で解説を行った。
- ・1月9日(水)に就職作文模試を実施し、就職活動への意識づけを行った。
- ・3月12日(火)藤岡キャンパスにて、群馬県内の病院就職担当者を招き、合同就職説明会が開催され、参加した。

4. 基礎演習・総合演習の取り組み状況と反省事項の整理(具体的に記述して下さい)

- ・総合演習 I については、体調不良で欠席した学生はいたが、おおむね出席状況も良く、 課題等にも積極的に取り組んでいた。
- ・3 年生は1年間を通じて看護学各論実習が中心であったが、実習終了後は、実習で得ら 得た学びを振り返り、将来の進路選択と1年後に控えた看護師国家試験に向けて気持ち を切り替えて取り組んでいくように指導を行った。

学年からの状況報告

看護学部(4)年

主任名(酒井美子)

- 1. クラス運営の状況
 - (1) 学年としての取り組み内容・状況(具体的に記述して下さい)
- 1. 学生の指導支援
 - ・学年別オリエンテーション(6回)では、生活、学習、健康についての指導支援行い、さらにクラス担任による面談を通して個別フォローを行った。
 - ・国家試験対策では、学生の動機付け、不安への対応を行った。後半では、国家試験対策委員との合同会議(5回)を施行した。学生の状況を共有し、強化学習による対策指導支援を行った。
 - ・保護者には2回、模擬試験結果と国家試験の案内を送付し、学生の状況報告と協力支援を求めた。
- 2. 教員の役割分担
 - ・役割分担を行い、業務の円滑化を図った。しかし、8月より教員の退職により委員不足となった。 クラス担任の補充はなく、全担任で協力して役割を補い、学生に不安を与えないよう配慮した。
- 3. 総合演習Ⅱ
 - ・①建学の精神と実践教育、②学習統合、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の5つのプログラムの構成を検討し実施した。今年度は、学習統合を強化し、「ハンセン病対策の歴史と現状」から人権、生命倫理に関する講話、看護連盟による「看護を取り巻く環境と私達の課題ー新人看護師への支援ー」と題した講話を計画実施した。
- (2) 各種講座等の取り組み状況(具体的に記述して下さい)

親睦スポーツ大会、ボランティア発表、昌賢祭、環境美化活動などは、全体的には積極的に参加 し、学年、グループの結束で成果を残した。

- 2. 学生の状況
- (1) 生活上の問題等(具体的に記述して下さい)

健康管理を行い、事故、災害、感染に留意すること。また、国家試験に向けての健全な生活リズムを身につけて学習環境を整えるよう、指導支援した。

- (2) 出欠の状況(休学・退学等の希望も含む) (具体的に記述して下さい)
- 1. 休学・退学者はなし。行事の出席率は良かった。
- 2. 全体的に 2/3 以上の出席で必要単位を履修し修得した。
- 3. 朝が弱く遅刻学生は目立ち、必要時個別の指導を行った。
- 3. 進路指導の取り組み状況(具体的に記述して下さい)
- 1. 学生は、早期から卒業後の進路を考え、インターンシップ、就職説明会に積極的に参加していた。 教員は学生の希望に沿った進路選択ができるよう支援を行った。
- 2. 就職活動では、進路指導委員と連携し、面接・小論文の指導、推薦書の作成等を行った。
- 3. 事務職を希望している学生については、保護者への同意確認を行うなど個別の対応を行った。
- 4. 進学を希望する学生の中には、自身の希望に沿えない結果であった学生もいた。しかし、自己の取り組みを見直し、今後の方向性について自己決断して国家試験対策に取り組んでいる。
- 4. 基礎演習・総合演習の取り組み状況と反省事項の整理(具体的に記述して下さい)
- 1. 全学生は、総合演習Ⅱの目的目標は達成できた。
- 2. 評価については、レポートは多かったが、積極的に取り組んでいた。
- 3. 学生の委員会組織の役割を明確化し、学生の主体性を高めることは課題である。
- 4. 基礎演習と総合演習の積み上げ教育を考慮した授業内容を検討し、学士力を身に付ける継続指導教育については今後の課題である。

リハビリテーション学部

学生委員会 活動報告

【リハビリテーション学部】

実践(活動)事項

・寮生活、サークル指導 4/4・子宮頸がん講話 4/4 (2 学年)・寮避難訓練 4/16・新入生歓迎サール紹介期間 4/18~20・交通安全、防犯講話 (1 学年) 6/7・親睦スポーツ大会学生実行委員会 4/5, 11, 17, 24・事前準備 5/1・親睦スポーツ大会 5/2・私大スポーツ大会準備 4/10~10/9・会議 6/7、7/19、9/6、11/8・昌賢祭学生実行委員会 5/9~11/16 会議 6/13, 27、7/11、18, 9/26, 10/3, 10, 17、24、31、11/7, 8, 14・デートDV防止講話8/3 (1 学年)・児童虐待防止講話9/20 (2, 3 学年)・私大スポーツ大会 10/6, 7・昌賢祭 11/17・命の大切さ2/7 (1 学年)・いのちときずなの学習会 2/7 (3 学年)

※各オリテン、各演習、学生課で随時学生指導を実施

※学生生活満足度アンケート調査(準備会議、実施 2/8、集約作業 2~8 月、9 月 1R 室へ提出)

委員会実施報告

- 事前打合 3 月 14 日 (中・長期活動計画、年間活動計画の策定)
- 第1回 4月25日(H30講座内容の吟味、学生相談室の開室日、H29講座の振り返り、H29学生満足度調査の集約状況、桃井小学校体育館利用)
- 第2回 12月12日 (生活指導、H30 実施講座の振り返り、H29 学生満足度調査の集約報告、H30 学生満足度調査進捗状況、学生相談室他)
- 第3回 12月21日1~3学年の学生委員会実施 (H29学生満足度調査結果報告、学生生活の 改善に向けた話し合い)
- 第4回 2月1日(H30学生委員会活動報告の検討、 H30 学生満足度調査進捗状況、H30 学生相 談室の開室日)
- ※委員会の他、教授会・学部会議・学年会で学生指導について随時会議・連絡を実施

課題(問題・改善)反省事項

本年度も「咸有一徳」「学生生活心トブック」を携帯させ、オリテン等の場で指導を実施した。内容は、生活指導を中心とした事故、心の病、健康面、人間関係、一人暮らし生活等である。学生の日常の規則正しい生活とマナーの遵守が、学業の充実やサークル活動、ボランティア活動の活発化につながるよう細かい指導を継続した。全学生が参加した親睦スポーツ大会や昌賢祭で交流を深め、また、学生向け講座を開き、学生の身近な問題を改めて学習した。学生の質が毎年変化している現実を捉え効果ある学生指導を心掛けたい。課題として、満足度調査は大学全体のDPに関わる調査内容であり、他大学同様IR室・自己点検評価委員会で推進していく事を検討していただきたい。こころの悩みを持つ学生も見受けられ、中途退学者の防止対策も引き続き、学年団や他委員会等とともに連携して推進していきたい。

2019 年度の展望

次年度は、「知行合一」の実践に向けて、各種のイベントを通じ、円滑な友人関係を築き、充実した活力ある学生生活の実践を、勉学と生活の両輪で推進したい。また学生とのきめ細やかな面談や指導を通じ、中途退学や問題行動を未然に防止したい。「咸有一徳」、「学生生活心ドブック」の有効的活用や効果ある講座を導入していきたい。学生生活や学習状況の把握を深め、より細かい指導が必要な学生もいることを念頭に置いて学生指導を推進する必要がある。また、29年度の学生満足度調査の結果を踏まえ快適な学生生活が送れるよう改善に向け取り組む必要がある。

所属関係教員

◎柴、○山口、小島、岡田

教務カリキュラム委員会 活動報告

【リハビリテーション学部】

実践(活動)事項

- (1) 教務カリキュラム全般に関する基本的事項の審議
- (2) 期末定期試験の実施・運営と成績管理・時間割・教室配置・非常勤講師・外部講師の検討など 教務に関する業務の全般
- (3) AP・CP・DP、及びアセスメントポリシーの検討
- (4) 新カリキュラムの作成に向けた審議
- (5) 教務システム(Web ポータル)の検討・稼働
- (6) 学則、及び規定の見直し
- (7) その他

委員会実施報告

- 第1回 5月7日 活動計画の確認
- 第2回 8月1日 寝坊をして試験を欠席した学生の対応について
- 第3回 9月7日 定期試験再履修者対応
- 第4回 10月 10日 教務委員長会議報告、教務システム権限、定期試験、再履修者の対応・規定について、新カリの方向性について
- 第5回 11月 26日 教務委員長会議報告、教務システムに関して:権限、授業概要、成績入力、授業評価、研修会開催時期など、学則変更に関して、アセスメントポリシー、再履修者の対応、規定に関して、新カリについて
- 第6回 1月23日 教務委員長会議報告、受験資格要件、再履修者の対応に関して、学則変更に関して、 後期定期試験、web による成績入力など、授業内講師依頼に関して、アドミッションポリシーについて

課題(問題・改善)反省事項

- 1) 教務システム(Web ポータル)の構築と運用
 - Web ポータルの運用に向け検討を進め、教職員説明、学生説明会を開催できた。成績入力、シラバス、授業評価アンケートなど本格運用に向け、準備を進める。現状では、以下の課題がある。
- ①シラバス入力においては、授業目標に関して3ポリシーでの位置づけの記載を設定できなかった。まトリックの入力設定を行うためには、新たなシステム構築が必要で、業者より時間を要するとの指摘を受けた。次年度構築に向け準備を進める。
- ②授業評価アンケート:学生への説明、教職員への周知が今年度間に合わなかった。次年度前期科目より運用できるよう準備を進める。
- ③成績登録において、基準を設けたうえでの GPA の運用を進める。
- ④履修登録、欠席管理など次年度より運用するための準備を進める。
- 2) 学則、規定の見直し
 - GPA, CAP 制、科目履修生など実情に合わせた規定の見直しと、それに伴う学則変更が必要となってきている。
- 3) 3ポリシーに加え、アセスメントポリシーの検討
- 3 ポリシーにおいては、専攻レベルでの承認は得られていない状況。また、3 ポリシーの検証のために

アセスメントポリシーが求められてきている。

4) 新カリキュラム

指定規則の変更にともなうカリキュラムの変更が必要。以下に現状の課題を挙げる。

- ・新学部の設置に伴う学部共通科目や学部横断科目の検討が必要である。今年度は3学部にける科目の 整理を行ったが、資格要件、学部の特性など共通科目の設定の困難さがある。
- ・教務課と教務カリキュラム委員会の連携に関しては、教務の教員の教務課への参加が一部進められた が、今後合同開催なども必要性がある。
- ・過密な時間割で限られた教員と教室で講義を運用するため、講義予定の変更数が多い現状がある。計画的かつ効率的な講義の運営を目指して改善作業に取り組む必要がある。
- ・特定教員による専門基礎科目が2年次に集中し、学生負担も多い。カリキュラムの改正とあわせて、 効果的な教育効果が得られる検討していく必要がある。

31年度の展望

- ・3ポリシーに加え、アセスメントポリシーを確立させ、3ポリシーの実効性を高める。
- ・指定規則、及び3ポリシーを念頭においた新カリキュラムの策定に向けた作業を進める。
- ・カリキュラムのスリム化や3学部で、一般教養科目やボランティア・チームケアなど基幹科目に関して、合同や共通科目の検討など進めるとともにキャップ制、GPA、履修時期などすり合わせていきたい。
- ·Webポータルの本格運用を進める。

所属関係教員

◎古田、○多田、小島、山口、宮寺、堀口

進路指導委員会 活動報告

【リハビリテーション学部】

実践(活動)事項

- ・求人票の管理
- ・キャリアデザインノート作成、配布
- ・就職説明会の企画、運営

委員会実施報告

第1回 4月18日 進路指導委員会活動計画作成(学部会議承認)

第2回 6月21日 31年度 4年生「就職の心構之」講義90分(平形委員長 担当)

第3回 8月 2日 就職説明会準備会議、

第4回 8月 3日 就職説明会当日

第5回 1月18日 就職内定状況確認、今後の進捗状況会議

課題(問題・改善)反省事項

① 就職説明会について

30年度において、リハビリテーション学部独自の就職説明会を開催した。 会場が狭いため非常に窮屈。場所や内容等を検討する必要がある。

② 企業アンケート等の利用について

企業アンケートの協力を求める等、就職情報の収集に努めてきてはいる。ただ、収集された情報について必ずしも分析・利用ができていない状況にある。学生の就職につなげられるようアンケートの利用方法、その内容・項目等の検討を要する。

31年度の展望

- ① リハビリテーション学部就職説明会の実施場所変更・総合演習等との連携
- ② 他の就職説明会の参加・利用の検討(関連性を検討する必要あり)
- ③ 企業アンケート等の活用・充実(IR室との連携)
- ④ 企業体験の積極化(実習先病院との連携強化)

所属関係教員

平形、牛込、新谷

実習指導部会 実習指導委員会 活動報告

【リハビリテーション学部】

実践(活動)事項

- ・大学4年次総合実習、大学3年次評価実習に向けての準備・指導
- ・各実習における状況確認と調整:実習地訪問の実施、実習指導者会議の開催
- 新規実習施設の確保および認可登録申請
- ・臨床実習規定の管理と運営
- ・実習の傷害保険の追加契約:看護学校協議会共済会の総合補償生徒(WILL)の導入
- ・実習関連書類の作成と内容の見直し:実習環境調査用紙の改訂、各実習書類の運用移行(アクセス)
- ・実習における感染対策の見直し:医療関係者のためのワクチンガイドラインの遵守
- ・臨床実習おける学生アンケート調査の実施および集計

委員会実施報告

第 1回 4月 4日

実習状況の報告を行った。また、委員会の活動計画において、委員会の目的、年間の臨床実習のスケジュール、委員の役割分担などを検討した。さらに、実習の傷害保険の見直し、実習指導者委員会の内容、実習前の学生の質保証、実習施設の検討、実習業務の効率化などを協議した。

第 2回 5月30日

7月に提出予定の文科省に提出する実習施設変更承認申請書について、メール会議を行った。

第 3回 11月21日

実習状況と3年次の評価実習の学生配置を報告した。また、委員会活動計画の進捗状況、実習環境調査用紙の内容、実習の傷害保険の追加、実習の手引きの改訂などを協議した。

第 4回 1月 23日

実習状況の報告を行った。また、委員会の活動計画の進捗状況、実習契約書類の見直し、実習指導者会議の内容、実習配置の際の保護者同意、入学式保護者説明の内容、実習手引きの改訂などを協議した。

課題(問題・改善)反省事項

- ・実習に関して大きな事故等発生することなく実施することができたが、実習関連書類(承認申請書など)において混乱する場面もあったため、書類作成スケジュールの見直し等を検討していく必要がある。
- ・実習学生の質保証を検討していくため3ポリシーや新カリキュラムとの整合を確認する必要がある。

31 年度の展望

- ・説明会等で保護者に臨床実習の概要を説明し、実習における理解と協力の依頼を行う。
- ・就職と実習を併せて希望する施設も増えてきているため進路指導委員会との連携を図る。
- ・新カリキュラム変更に向けての実習時期と指導の在り方について検討する。

所属関係教員

理学療法専攻:小島・柴(副委員長)

作業療法専攻:宮寺(委員長)・牛込

事務局 : 堀口

国家試験受験対策委員会 活動報告

【リハビリテーション学部】

実践(活動)事項

- 1. 入学時からの学習経過と国家試験成績についての分析
- ・過去 16 年の国家資格合格率の全国平均は、理学療法士(PT)88.0%、作業療法士83.1%、看護師90.2%で特に理学療法と作業療法は、看護師と比して年々合格率が低下している傾向にある。
- ・専門基礎共通科目のうち、47%は解剖学・運動学・生理学であるが、本学の平成 29 年度受験学生における学外業者模試の傾向では、特に解剖学と生理学が全国平均値より低値であった。国家試験得点と強い相関を示すのは 2 年次の GPA (r=0.621, p<0.001)で次いで 1 年次の GPA で強い相関を示したことから、2 年次までの基礎医学系知識の積み上げ状況が国家試験得点に大きな影響を及ぼすことが考えられた。
- ・国家試験の合否という観点からは、1年次 GPA や入試形態が影響する可能性が示唆されたが、ロジスティック回帰分析で統計学的有意差は示されなかった。その他にも、学外業者模試の成績と国家試験合否との関連性などを含めて検討。
- ・基礎医学的な知識を積み上げていくには、学習時間の確保が不十分であった。
- 2. 国家試験受験対策の計画と実現

上記分析結果を踏まえ、

- ①国家試験対策の取り組み時期を早めるための調整を行う(具体的には実習期間の調整と卒業研究発表会の時期を平成30年度から早めた)、
- ②基礎医学系の専門共通科目の取り組み強化(早期から専門共通への対応を進める)、
- ③協同学習を円滑に進めるための小集団への成熟支援、
- ④既卒生受験者に対する諸手続の効率化・明確化、
- ⑤学内模試の精度向上と教員負担の軽減を目的として WEB 問題作成支援ソフトの導入 などを今年度新たに行った。
- 3. 国家試験受験対策の実施
- ・グループ割り振り、グループ毎の学習進捗状況の把握と管理、学生への個別支援などを安定した協同 学習の運営に向けたサポートを実施した。
- ・週1~2回の学内模試作成と実施、結果の分析などを実施した。
- ・学習時間と学習場所の確保(中央公民館の利用申請と開校時間の延長)
- 4. 国家試験の受験申請とそれに伴う事務手続き等
- ・在学生と既卒生の国家試験申し込みに関わる全ての諸手続を実施した。
- ・旅行代理店と連携し、受験会場に柔軟に対応出来る前泊ホテルを手配した。
- ・各専攻における学内外の模擬試験結果を集計した。
- ・既卒生に対する大学からのサポートに関する意向調査を実施した。
- ・既卒生に対する国家試験受験対策などに関する説明会を実施した。

委員会実施報告

- 第1回4月5日・・・昨年度の傾向分析と今年度の対策について
- 第2回9月26日・・・国家試験対策の進捗状況
- 第3回3月(予定)・・・国家試験の結果を踏まえ、本年度の振り返りと次年度の計画立案
- ※その他、随時4学年担任と国家試験対策員担当者間で打ち合わせ会議を実施(国家試験申し込み手続きや宿泊地手続き、受験票受け渡し、合格祈願手続き、受験前日からの引率など)

課題(問題・改善)反省事項

- ①協同学習に向けた学習の取り組み方法に関する認識の徹底
 - 4 年次のより早期から協同学習の実施に向けた基本的な学習スキルとグループ運営について学生が理解できるような取り組みを実施する。学習教材や受験する業者模試についても、再度検討する。
- ②基礎医学系科目の2年次までの学習強化

上記分析の通り、基礎医学系の基本的理解の低さが問題となっている。国家試験の対策より、まずは 1年次2年次でいかに基本的知識を確実に修得するかといった視点の学習支援も必要である。

31 年度の展望

・平成31年3月25日に発表される結果を踏まえて具体的な次年度の計画を検討する。 ただし、上記の課題①と②に対しては、次年度の4月から実施できるように対応策を検討していく。

所属関係教員

◎山口、○新谷、古田、牛込、横山、堀口

環境美化委員会 活動報告

【リハビリテーション学部】

実践(活動)事項

学問としての清掃を実践するために、自然科学的観点、社会科学的観点、人文科学的観点を踏まえた総合科学の学問習得を目的に行う。また医療従事者としての人間性の「美化」を育て、現場で対応ができる人材を育成する。

- ・清掃活動(環境美化ノート、金曜日の洗濯当番、学生による1年生への掃除指導)
- ・大掃除(担当教室の入念な掃除,個人のロッカーと下駄箱の掃除を追加)
- ・健康診断 (1 年生は抗体検査を実施し、抗体がない学生は医療機関で抗体をつけ、受診後は証明書を 提出)
- ・インフルエンザ予防接種(希望者のみ接種),ノロウイルスの対応マニュアル作成と配置
- ・物品購入(保健室用のパルスオキシメーター,掃除機追加購入,椅子のネジ締め用の電動ドライバーなど)

委員会実施報告

教職員

第 1回 5月 9日 年間計画について

第 2回 12月 20日 インフルエンザやノロウイルスへの対応について

第 3回 1月 30日 ゴミ捨てと掃除用の場所変更について

学生

第 1回 5月 28日 掃除に関する取り組みについて

課題(問題・改善)反省事項

- ・普段の環境美化活動を通して総合科学としての理解を深め学習環境の改善を図る。
- ・教職員による掃除チェックの徹底が図れなかった。
- ・分別ゴミの場所変更に伴う場所の確保。
- ・各講座の取り組みで、学生が不在となった時の担当掃除場所のスムーズな変更。
- 消耗品の補充など。

31 年度の展望

・学生による環境美化活動を活性化するために、学生委員会を定期的に開催し、現状の問題やそれに対する提案など学生による活動を促す。

所属関係教員

◎新谷, ○高坂, 星野

FD·SD委員会 活動報告

【リハビリテーション学部】

実践(活動)事項

- ・FD・SD 活動における全学研修の企画運営
- ・年度初めの会における FD・SD 研修、夏期 FD・SD 研修、年始の会における FD・SD 研修の企画運営
- 専任教員研究発表会の企画運営
- 非常勤講師説明会の企画運営
- ・リハ学部 FD 研修会の企画運営 (12/26、1/9 実施)

委員会実施報告

第 1回 平成30年4月26日

第 2回 平成30年12月26日

第 3回 平成31年2月7日

課題(問題・改善)反省事項

- ・以前より課題になっていた学部単位で実施する FD 研修会を、今年度リハビリテーション学部では 2 回実施することができた。しかし、実施時期が偏ってしまい、計画的な実施ではなかった。
- 小規模な FD 研修を実施するためのテーマに関する希望調査が不十分に終わってしまった。
- ・継続的なFD 研修は実施できたものの、SD 研修を実施することが不可能であった。
- ・2 か月ごとに実施する予定であった 3 キャンパス委員長会議が後期行われなかったため、情報共有が不十分であった。

31年度の展望

- ・学部での FD 研修会の継続的実施
- ・全学的 FD 研修会を、関連性を持ったテーマで実施するため、委員長会議の定期的実施
- ・リハビリテーション学部での SD 研修の企画運営
- ・リハビリテーション学部での小規模 FD 研修実施に向けたアンケート調査の実施及び企画運営

所属関係教員

悴田 平方 多田

自己点検・評価・コンプライアンス委員会活動報告

【リハビリテーション学部】

実践(活動)事項

- 1) 短期計画 平成30年度の計画について
- (1)授業力・教育力向上のための自己点検の実施
 - ①授業改善のための評価アンケートの準備、実施、分析を行った。
 - ②授業改善の評価アンケート報告書の集約と整理を行った。
- (2) リハビリテーション学部における自己点検の実施
 - ①教員の自己評価に関する活動計画の検討を行った。
 - ②教員の自己評価を行った。
 - ③授業評価アンケート結果の集約の迅速化に向け、教務委員会と意見・情報交換を行った。
 - ④授業評価アンケートの分析及び分析結果の公開を行った。
- (3)全学の自己点検の実施
 - ①学部間で相互理解を促進するための、会議参加・委員会運営を行った。

委員会実施報告

5月16日 第1回 委員長会議

7月12日 第1回 自己点検員会会議 (リハビリテーション学部)

7月18日 第2回 委員長会議

10月17日第3回 委員長会議

1月16日 第4回 委員長会議

1月30日 第2回 自己点検員会会議(リハビリテーション学部)

随時、新教務システムの稼働に向けて、教務委員会と意見・情報交換を行った。

課題 (問題:改善) 反省事項

マークシートリーダーの不具合により、前後期アンケートの集計に多くの時間を費やしたことが挙げられる。後期については、web 上で、授業評価アンケートを実施できる予定であったが、学部間の調整が間に合わなかったことで、導入ができなかった。

31年度の展望

次年度については、web アンケートにシフトすることにより、集計の迅速化や学生の記入に係る負担減少を図ることができる見通し。また、新教務システムによる授業評価アンケートを導入することに伴い、種々のシステム上の不具合が出る可能性もあることから、問題を集約・整理し、改善に向けた対応を図っていく。さらに、2020 年度のシラバス入力(2020 年 2 月頃予定)に改善点を反映できるよう、より早期にデータの整理を行い、アンケート結果を各教員へ伝達していく。

所属関係教員

◎高坂 ○悴田 古田 星野真

ボランティア委員会 活動報告

【リハビリテーション学部】

実践(活動)事項

- ・各専攻・学年の担当教員と協働し「ボランティア活動 I・II」における学生指導を行った。
- ・地域貢献活動として各専攻1年生が行ったクリスマス会の企画運営支援を行った。
- ・合同ボランティア会議への出席および連携により、外部との連絡交渉、諸手続きなどを行った。
- ・各期オリエンテーションを通してボランティア活動の意義・目的を学生・教員へ周知した。
- ・リハビリテーション学部におけるボランティア活動の効果検証を行った。
 - ⇒ 2018年教員研究発表会・群馬医療福祉大学紀要7号にて発表した。
- ・リハビリ学部のボランティア活動と効果検証に関するレポートを作成した。
 - ⇒ 学長先生に提出した。

委員会実施報告

第1回 3月 26日 今年度の行事ボランティア日程、学生の割り振りなどを行った。

第2回 5月 7日 ボランティア合同委員会(前橋キャンパス)にて、議題となった件に関して、 学部内での意見の集約を図った。

第3回 月 日 平成30年度事業報告、反省・改善事項、来年度へ向けた提案などを行う**

※ 4月25日(水)および12月21日(金):合同ボランティア会議(前橋キャンパス)にて、大型ボランティアの活動予定とボランティア委員会規定の見直しが継続審議となっている。これらの 事項が確定した時点で、リハビリテーション学部での第3回会議を開催する方針である。

課題(問題・改善)反省事項

【活動記録簿について】

- ・学生がボランティア後に提出する際、管理番号の未記載が目立つ。
- ・各担任に提出するまでタイムラグがある。

【ボラ参加に対する学生の姿勢について】

・2年次にボラ参加に対する動機づけや頻度が低下する印象がある。

31年度の展望

【ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ】

・ボランティア活動 I (初年次教育の効果判定を含む) の在り方を検討する。これと並行して、授業内容も再考する必要がある。

【学生のボランティア参加に関して】

- ・1年次から2年次に進級する際に、より発展的にボランティアに参加できるよう、活動内容の繋がり を明確化し、提示する(2年次は専門性の高い活動を伴うボランティアに参加できるよう調整)。
 - ⇒ 本年度に行った効果検証において、この点を推奨する結果が得られた。

所属関係教員

◎村山明彦, ○宮寺亮輔, 悴田敦子, 柴ひとみ, 横山雅人, 高坂駿

高大連携委員会活動報告

【リハビリテーション学部】

実践(活動)事項

- ・高大連携授業の準備・開催(高大連携講座)
- ・高大連携高等学校との連絡協議会の開催(高大連携高校との情報交換会)
- ・ 高大連携に関わる教育機関との連携 (群馬県総合教育センター研修の開催)
- ・高大連携授業と入試広報課との連携(高大連携型 AO 入試形態)
- ・ 高大連携高校の増加促進
- 教員免許状更新講習の準備・開催
- ・教員免許状更新講習の開催公認申請(文部科学省)
- ・ 群馬県内大学連絡協議会への資料提出
- ・各種アンケート調査・集計・分析

委員会実施報告

第1回 5月11日 第1回高大連携員会会議(リハ学部)

第2回 6月23日 第2回高大連携員会会議(リハ学部)

第3回 12月17日 第3回高大連携員会会議(リハ学部)

第4回 2月6日 第4回高大連携員会会議(リハ学部)

※上記会議以外に、地域連携センター室にて適宜会議を開催して課員の周知を図った。

課題(問題·改善)反省事項

高大連携授業の内容を今年度より導入された高大連携型 A0 入試にどのように反映させるかが大きな検討課題であった。特に、課題内容やそれを評価する基準、評価方法について多くの検討時間を要した。また、昨年と比較し授業に参加した高校生もかなり増加したため、当日の授業運営自体も工夫が必要であった。生徒がなるべくアクティブに学べるよう、授業概要や目的等の整理、授業形態や実施会場の検討が必要であると考える。

31年度の展望

今年度の反省を加味し、授業内容の再検討、授業概要・シラバスの整理(他学部との連絡調整)、アクティブラーニングを取り入れた授業の実施、AO入試との接続などを課題として取り組みたい。

また、教員免許状講習の開催や各外部組織との連絡調整に関わる業務は、3 学部合同で連携を取りながら適宜運営に携わっていく。

所属関係教員 ◎高坂 ○岡田

リハビリテーション学部(1)年

主任名(悴田敦子)

1. クラス運営の状況

- (1) 学年としての取り組み内容・状況(具体的に記述して下さい)
- ・春期・夏期・秋期・年末・新年オリエンテーションを実施し、学生生活の指導、委員会報告等を行った。
- ・フレッシャーズキャンプ: OT 専攻男子学生が入学式前日に臀部の Ope を実施し、FC 前日に退院したため、行きのバス内で体調不良となるが、夜には回復し継続して参加した。各専攻ともに学生間の交流が行え、他学部との交流を好意的にとらえていた。
- ・親睦スポーツ大会:スポーツ委員を中心に、両専攻ともに怪我なく各種目に参加し、学生間交流が行えた。
- ・ボランティア活動:1年を通して各種のボランティアに目標を持って参加し、自己の振り返りを行った。子どもを対象とするボランティアの参加が多く見受けられた。
- ・ディズニー研修: OT 専攻男子学生が体調不良で欠席したが、後日課題対応した。研修ではホスピタリティやコミュニケーションについて学ぶことができ、その後の実習・ボランティア等に活用することができた。
- ・前橋祭りだんべえ踊り:事前に踊りの練習を行い、当日は他参加者とも交流しながら参加した。
- ・昌賢祭: 昌賢最委員を中心に各専攻で企画・出し物を検討し行った。例年と比較し、準備が速やかに行われ、当日は参加者との交流や在校生との交流が十分図れていた。
- ・クリスマス会:ボランティア委員を中心に各専攻で企画・運営を学生主体で行い、地域の方との交流を図ることができた。参加者は少なかったが、学生が積極的にかかわる姿が見られた。
- (2) 各種講座等の取り組み状況(具体的に記述して下さい)
- ・国試対策:学習方法の指導から、基本的な学習習慣の習得や基礎学力向上を目指した。9 月国試模 試を実施し、後期に向けての学習指導を行った。
- ・見学実習: PT 専攻は8月に、OT 専攻は11月に県内の病院にて1日の見学実習を実施。実際のPT・OTの臨床場面を見学し、積極的に参加することができた。
- 2. 学生の状況
- (1) 生活上の問題等(具体的に記述して下さい)
- ・髪型・髪色などの身だしなみが崩れた学生が複数名いたため、指導を要した。おしゃれと身だしなみの違いについて理解し、実践できるように指導する必要がある。
- ・基礎演習・ボランティア活動で課題が期限内に提出できない学生が複数名いたため、両専攻ともに 指導を要した。学習面でもスケジュール管理が不十分であったため、生活・学習等で指導・支援を行 った。
- (2) 出欠の状況(休学・退学等の希望も含む) (具体的に記述して下さい)
- ・軽微な交通事故や体調不良はあったものの、連続する欠席や学校生活に影響するものはなかった。
- 3. 進路指導の取り組み状況(具体的に記述して下さい)

特になし

- 4. 基礎演習・総合演習の取り組み状況と反省事項の整理(具体的に記述して下さい)
- ・建学の精神と実践教育プログラム、学士力育成プログラムにて、建学の精神の理解と大学生活の基本となる授業の受け方、図書室の利用、レポートの書き方、グループワークの手法、発表、ポートフォリオ作成等を行った。
- ・基礎演習で行われたディズニー研修が、例年より1週遅い日程で行われたため、事後のスケジュールに余裕がなく、振り返り等が例年に比べ不十分であった。次年度・カリキュラム変更にむけ、十分な学習効果が得られるように企画する必要がある。

リハビリテーション部(2)年

主任名(横山雅人

1. クラス運営の状況

- (1) 学年としての取り組み内容・状況(具体的に記述して下さい)
- ・建学の精神とディプロマポリシーに基づき、本学の学生としての基本的な教養と自立的実践力、地域社会に貢献できる心豊かな学生の育成を目的として取り組んだ。
- ・前期では、より専門的な医学と医療技術の習得に向けたカリキュラムとなるため、効率的な学習計画立やクラス内での協同学習の指導を行った。5月2日の親睦スポーツ大会では、大きな怪我などなく、全員参加することができ、クラスの団結が深まった。
- ・後期では、障害者スポーツ大会のボランティアへ全員が参加し、地域貢献だけでなく、障害者への理解を深め、学習への動機付けを確認することができた。また、1年生から続いたボランティア活動全体の振り返りを実施し、医療従事者に必要な行動やコミュニケーション能力の指導を行った。
- (2) 各種講座等の取り組み状況(具体的に記述して下さい)
- ・11/10 に3学科合同のチームケア入門が実際され、事例に対する発表会が行われた。他の職種の理解だけでなく、チームケアの重要性について指導を行った。
- 2. 学生の状況
- (1) 生活上の問題等(具体的に記述して下さい)
- ・作業療法専攻女子学生 A:1 学年次より、精神的に不安定な症状から心療内科に加療中である。大勢のイベント(オリエンテーションなど)時に不安でパニック発作が起こることもあったが、友人に支援してもらい、迅速に処置・対応できていた。本人も体調を自己管理できるように努力しており、母親、担任、学生相談員と相互に相談しながら、安定した学生生活を送る方法を検討している。
- ・理学療法専攻女子学生 A: 2学年となり、学習レベルが向上するため、意欲低下の相談を受けた。担任、副担任との数回の面談を通じ、本人の学習意欲の回復につなげることができた。助けてくれる友人の存在が大きく、必要とされているという自覚を持つことで意欲を回復することができた。
- ・理学療法専攻女子学生 B: 卵巣腫瘍の診断にて 12 月に手術実施。入院 1 週間、自宅療養 4 週間の診断となる。欠席 分の授業対応については、教務委員会が中心となり、補講・課題等にて個別対応することができた。
- (2) 出欠の状況(休学・退学等の希望も含む) (具体的に記述して下さい)
- ・インフルエンザ・ノロウイルス対策を含めて、体調管理の指導を実施(12~2月)。
- ・作業療法学生女子学生 B: 理学療法専攻を志望していたことから、2 学年となっても意欲低下の様子が伺えた。友人の支援、生活状況への声かけにより、卒業を目指す方向へ意識が向いてきている。
- ・理学療法専攻女子学生 C:外部講師の授業に欠席が多く、面談を実施。教務委員と協力しながら欠席しないような 声掛けや欠席分の補習を実施し、定期試験を受けることができた。
- ・理学療法専攻男子学生 A: 欠席過多にて定期試験受験資格を失う。両親、本人と話し合う中で、一時は退学も視野に入れる状態であったが、関わりの中で意欲を維持・向上することができた。受験資格を失った当該科目は来年再履修することになった。
- 3. 進路指導の取り組み状況(具体的に記述して下さい)
- ・両専攻ともに体験実習が開催され、臨床現場の経験を通して職業への理解を深めた。
- 4. 基礎演習・総合演習の取り組み状況と反省事項の整理(具体的に記述して下さい)
- ・基礎演習Ⅱでは、国際福祉機器展への参加するための事前学習を行い、最新の福祉機器への興味が広がった。さらに、計画性を持って国際福祉機器展へ参加することで、最新の医療福祉問題や社会保障制度について理解を深めることができた。また、日本語検定を通じて求められる社会人の日本語力を理解し、自己分析をすることができた。

リハビリテーション学部(3)年 主任名(山口智晴)

1. クラス運営の状況

- (1) 学年としての取り組み内容・状況(具体的に記述して下さい)
- ・建学の精神とディプロマポリシーに基づき、本学の学生としての基本的な教養と自立的実践力、 地域社会に貢献できる心豊かな学生の育成を目的として取り組んだ。
- ・夏期休暇からは、卒業研究のテーマと担当教員が決定し、各担当教員の指導の下で研究テーマの 絞り込みと研究計画の作成に取り組んだ。また、11 月末から始まる臨床評価実習に向け、基本的 知識や技術、医療従者としての基本的態度や倫理観について具体的な指導を行った。
- ・理学療法専攻は平成 30 年 11 月 26 日~平成 31 年 3 月 1 日のうち 4 週間 3 期に分かれ、臨床評価 実習に計 40 名が参加した。
- ・作業療法専攻は平成 30 年 11 月 26 日~12 月 14 日の 3 週間で臨床評価実習 I に 25 名が参加、平成 31 年 1 月 14 日~2 月 1 日の 3 週間で臨床評価実習 I に 25 名が参加した。

(2) 各種講座等の取り組み状況(具体的に記述して下さい)

- ・平成30年9月20日のオリエンテーションにて「児童虐待防止、早期発見のための講演」を行い 虐待の問題に関する知識を深めた。
- ・平成31年2月7日のオリエンテーションでは、「臓器移植推進室出前講座」を行い、臓器移植への関心を持つとともに、臓器移植に関連する社会的な問題などを理解し、知見を広めた

2. 学生の状況

(1) 生活上の問題等(具体的に記述して下さい)

- ・身だしなみが不適切な学生も一部みられたが、その都度教員から指導を行った。
- ・精神的に不安的な学生が両専攻共に複数名おり、担任を中心に学生相談室のサポートを受けつつ、 学生の学習支援をすすめてきた。

(2) 出欠の状況(休学・退学等の希望も含む) (具体的に記述して下さい)

- ・体調不良を訴える学生もいたが、担任を中心に細かなフォローを行い休学や退学に繋がる学生は 見られなかった。特に、保護者との連携を密に行い、学生の状況について共有を図った。
- ・臨床実習を控えるため、インフルエンザ予防接種の勧奨や各種抗体検査の再確認等を行った。
- 3. 進路指導の取り組み状況(具体的に記述して下さい)
- ・就職説明会が平成 30 年 8 月 3 日に、本町キャンパスがある前橋プラザ元気 21 ビルで開催され、 多くの病院施設から情報収集を行うことができた。
- ・平成 31 年 3 月 12 日に看護学部で開催される予定の就職説明会に向け、情報収集のための準備を行った。
- ・実習を通して学んだ事項や今後の課題について検討し、医療福祉分野の専門職になるために必要な事柄について改めて振り返った。
- 4. 基礎演習・総合演習の取り組み状況と反省事項の整理(具体的に記述して下さい)
- ・総合演習 I では、大学生としての学士力向上に向けた取り組みを行った。具体的には、人口動態の推移と推計などから、今後医療福祉分野で生じることが予測される問題を検討する、様々な文化や宗教から捉える人間の死生観について学ぶ、救急車有料化や保育園の建設反対運動などの社会問題を取り扱ったディベートなどを実施した。

リハビリテーション学部(4)年

主任名(新谷益巳)

- 1. クラス運営の状況
 - (1) 学年としての取り組み内容・状況(具体的に記述して下さい)
- ・3年次と同じ担任が4年次も継続となったため、学生状況の把握など次年度に向けての打ち合わせを行い今年度の取り組みを実施した。
- ・前期は臨床実習(8週間を2回)、卒業研究、就職活動を中心に取り組みを進めた。
- ・4月からの個別面談では、生活環境、臨床実習、卒業研究、就職活動について確認をした。
- ・後期は国家試験対策委員を中心に対策を進めた。外部模試として医歯薬模試(実施日:第1回11月24日,第2回12月22日,第3回1月26日)と,三輪模試(1月5日)を実施した。学内模試は週2回(過去問から問題を作成)実施している。合格に向けた取り組みは、グループ学習を基に記憶の積み上げを行っている。面談では、合格する意思の確認を行い、全員が諦めることなく最後まで粘り強く取り組めるようサポートを行っている。2月1日から2月22月まで4年生に限り21時まで国家試験対策を実施している。
- (2) 各種講座等の取り組み状況(具体的に記述して下さい)
- ・作業療法専攻では、5 月の実習指導者会議にて実習指導者との面談を行い、実習に向けての準備を 積極的にすすめた。
- ・8月の就職セミナーでは多くの病院や施設の人事担当者と情報交換をおこなった。
- 2. 学生の状況
- (1) 生活上の問題等(具体的に記述して下さい)
- ・4年次は臨床実習、卒業研究、国家試験、就職活動といったように多くの取り組みがあり、身体的、精神的に良好な状態を維持していかなくてはいけないため、自己管理についての指導したが体調を崩す者もいた。その都度、対象学生には担任から指導をおこなった。
- (2) 出欠の状況(休学・退学等の希望も含む) (具体的に記述して下さい)
- ・両専攻ともに概ね良好であるが、理学療法専攻の女子学生1名が体調不良で休みがちとなり、保護者との面談を重ね後期から休学となった。この学生を除いた38名は卒業予定である。休学した学生には定期的に本人と保護者と連絡を取り状況把握に努めている。2月~3月にかけて保護者との再面談を行い、2019年度から復学に向けて準備を進めていくの予定である。作業療法専攻では、休学者・退学者もおらず、全員卒業予定である。
- 3. 進路指導の取り組み状況(具体的に記述して下さい)
- ・学内の就職説明会をはじめ、群馬県の病院や施設を中心に就職活動を進めた。本人の希望に合わせて活動をおこなった。2月7日時点においては、理学療法専攻は37/38名中が内定済みである。作業療法専攻は24/27名中が内定済みである。まだ決まっていない学生は、本人の意向により2月24日の国家試験後に就職活動を行う予定である。残りの学生に対しても担任を中心に就職活動を進めていく。
- 4. 基礎演習・総合演習の取り組み状況と反省事項の整理(具体的に記述して下さい)
- ・建学の精神に基づき、総合演習Ⅱでは進路・資格取得プログラムを中心に進めた。特に、就職に向けた取り組みの中では、就職活動の流れ、病院や施設見学時のマナーなど多くの場面に対応できるよう指導を進めた。また、進路の手引きを用いた自己分析、履歴書の書き方、活動後の報告、内定後の報告まで細かな点についても理解した上で実施した。